

# 国民性の国際比較

統計数理研究所 名誉教授 林 知己夫\*  
東洋英和女学院大学\*\* 林 文

(1995 年 3 月 受付)

## 目 次

- 序. 国際比較の意義とその方法
- 1. 国際比較からみた日本人の特性
  - 1.1 人間関係
  - 1.2 中間的意見・中間回答について
  - 1.3 極端な表現が少ないこと
  - 1.4 自信と自虐意識
  - 1.5 リーダーシップについて
  - 1.6 意識の未分化
  - 1.7 科学文明観
  - 1.8 自然観
  - 1.9 宗教
- 2. 意識の国際比較の観点からみた日本人と外国人の同異の姿
  - 2.1 同一スケールの存在と国の位置付け——マクロ分析
  - 2.2 個人の回答ボタンを基にする国の位置付け——マイクロ分析 その1
  - 2.3 個人の回答ボタンを基にする国の位置付け——マイクロ分析 その2
  - 2.4 回答の意味の解釈——イソップ物語と関連する社会的態度をめぐって——
  - 2.5 意識の分化と未分化の諸相
- 3. おわりに
- 参考文献
- 附録 1. 義理人情に関する質問群
- 附録 2. 科学文明観に関する質問群

## 序. 国際比較の意義とその方法

国民性研究として最初にまとまって論じたのは Wilhelm Max Wundt [1832-1920] であると言われているが (Wundt (1910-1920)), 計量的研究では国民性という言葉は故意に避けられており, 価値観, 価値意識, 社会意識等々の言葉で表現されてきた。1950 年代になって Alex Inkeles があえて国民性 (National Character) という言葉を用いて研究を展開しているのは例外である (Inkeles and Levinson (1969), Inkeles (1991))。わが国では統計数理研究所による 1953 年の第 I 次国民性調査から計量的研究が始まったといえようが, 我々はそれ以来, ニックネームとして「国民性」を用いている。それより前は「国民精神動向」という言葉も使ったことがあるが, 誤解されるおそれがあるというので, 国民性という表現に変えた経緯がある。国民性という言葉を用いて, 操作的には, ものの考え方, 見方, 感じ方 (belief systems, the way

\* 〒 181 東京都三鷹市井の頭 2-23-11.

\*\* 人文学部: 〒 226 神奈川県横浜市緑区三保町 32-1.

of thinking and emotional attitudes or sentiments と意識している) と定義付けている (林 (1993a)).

国際比較の目的は、日本人と外国人の異なるところと似たところを比較しつつ、日本人の特性と位置づけを知ると共に、国際理解のための科学的情報を提供することにある。国民性研究としては、日本における継続調査により変化してきたところと変化していないところを明らかにする研究と併せて、国民性の時間的・空間的研究であるということが出来る。国際比較のための方法論についてはこれまで多く発表してきたのでここに繰り返さないが (林 (1981, 1988, 1990, 1991, 1992a, 1992b, 1993a), Hayashi (1992c, 1992d), Hayashi et al. (1984, 1992), 林・鈴木 (1986), 林・米沢 (1982), 統計数理研究所意識の国際比較委員会 (1991)), そのうち方法論的にみて根幹となる考え方は、連鎖的国際比較調査分析法 (Cultural Link Analysis, CLA と略称) であるという点を強調しておく。この方法により、異なったところ、似た所が鮮明になるのである。いずれにせよ、国際比較は、常に「いかにして比較が可能であるか」の考え方を中心に据えて方法論を講究しつつ発展させなければならないものである (林・鈴木 (1986), 林 (1992b), 統計数理研究所国民性調査委員会 (1992)).

さて我々の国際比較調査は、表1に年代に沿ってまとめてあるような所で行なわれている。ちなみに本論で単に国際比較あるいは国際比較調査と記したものは、原則的にこれらの調査を示す。これをCLAの形で書いてみると表2のようになる。

まず、国際比較における各国及び日系人の大局的位置づけを知ることは、以下の分析内容を理解する上で大切と思うので、表1の国際比較調査 (7カ国とハワイ、ブラジルの日系人) について、各国の質問の意見分布を材料に、マクロ分析の立場から検討することにしよう (林 (1993a)).

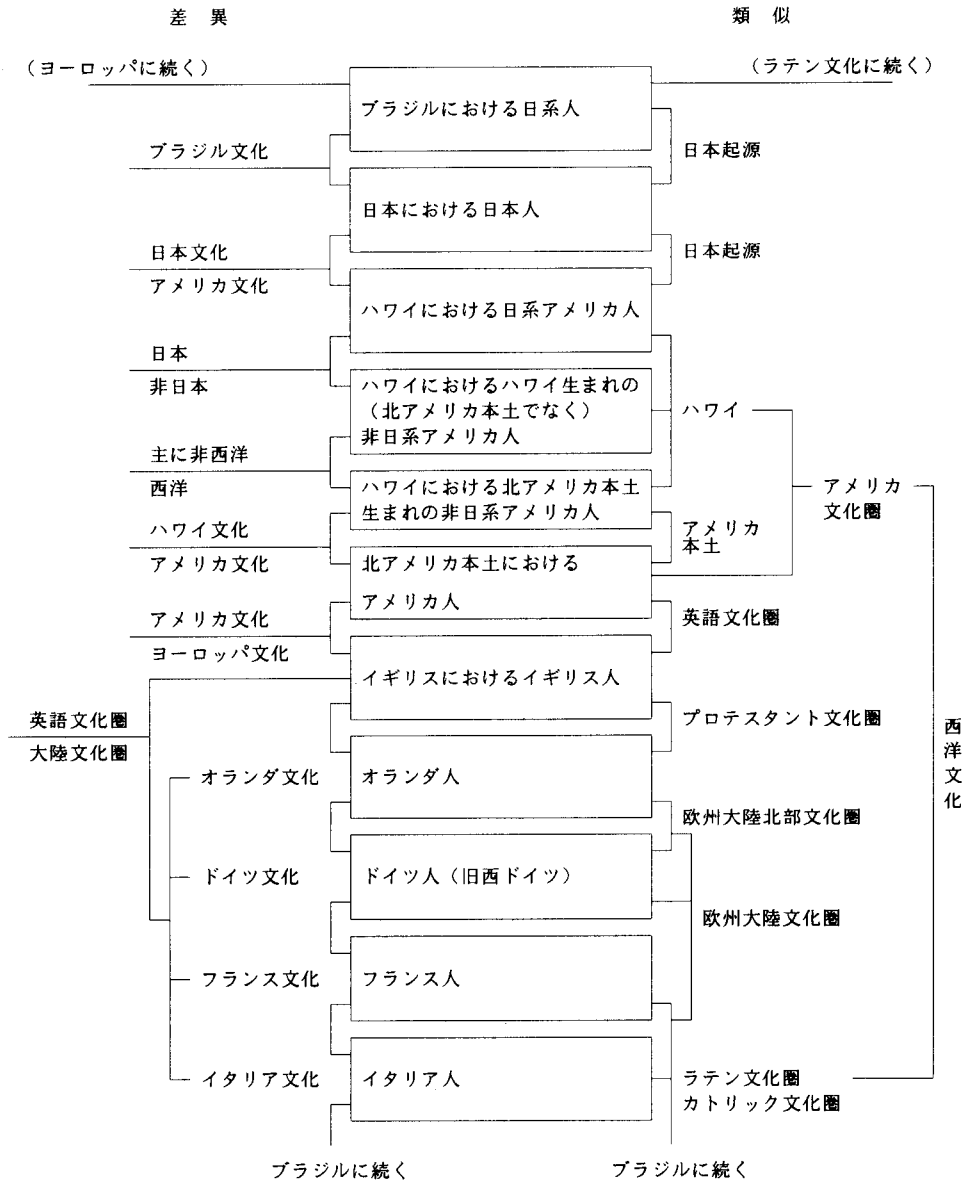
国際比較のための質問項目は、CLAの考え方により、それぞれの国に特有な考え方を引き出す質問、各国間で共通の質問 (人間として共通のもの、近代文明という面で共通の考え方) から成っており、日本人の国民性調査に継続して使われてきたものも含み、内容は、経済の見通し、将来の見通し、不安感、健康観、勤労観、家庭観、人間関係、義理人情、信頼感、科学文明観、宗教、政治意識など様々な領域にわたっている。この分析にはこれらほとんど全ての質問についての意見分布を用いているが、ただ、文化発展の状況に強く影響される環境とコンピュータ

表1. 国際比較調査.

実施年	調査対象 (日系人関係)	(サンプルサイズ)	調査対象 (各国全国規模調査)	(サンプルサイズ)
1971	ハワイ在住の日系人	(434)		
1978	ハワイ住民 (日系人を含む)	(751)	アメリカ本土の アメリカ人	(1571)
1983	同上	(807)		
1987			イギリスの英国人 (旧)西ドイツのドイツ人 フランスのフランス人	(1043) (1000) (1013)
1988	同上	(499)	アメリカ本土の アメリカ人	(1563)
1992	ブラジルの日系人	(492)	日本 (A調査)	(2265)
1993			イタリアのイタリア人 オランダのオランダ人	(1048) (1083)

注) ハワイ調査はホノルル市のみ  
ブラジル調査はサンパウロを中心とする地域

表2. 国際比較の連鎖 (CLA).



に関する質問を除外した。また、各質問において原則として一つの回答肢をその質問の特徴をあらわすものとしてとりあげ、その他・DK・中間的回答——これはあとで別にとりあげて論じる——は除外した。回答肢がそれぞれ独立と見做せるものは、すべての回答肢をとりあげた。各質問がいくつかの小質問にわかれていて回答選択肢の形式が同じ(段階の意味を持つ回答肢など)ものについては、それらを合計して平均値を出し、1つの質問に対する回答として取り扱った。さらに、後述する義理人情スケール、人情スケール、中間回答スケールにまとめたものもそれぞれ段階で区分して回答肢と同様に扱いこの分析に含めた(ブラジル日系人意識調査委員会(1993))。

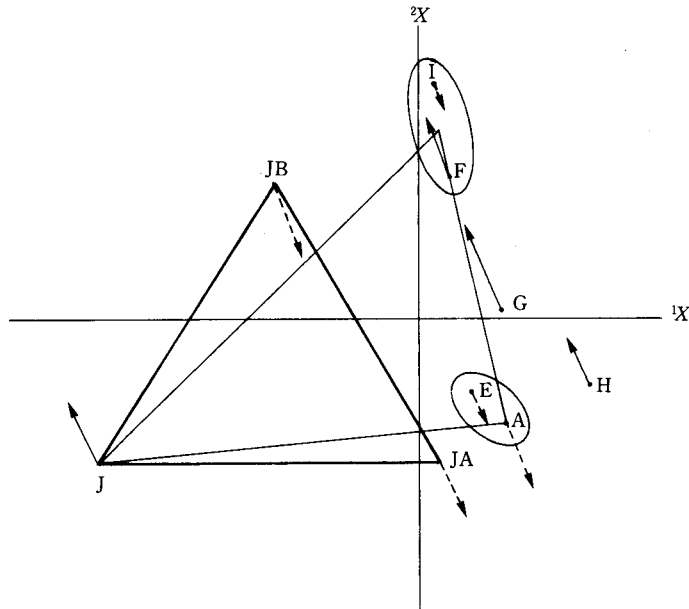


図1. 7カ国とJA, JBの布置.

この国別の回答分布表（国数×総回答肢数のパーセント表）を用いて、数量化III類（カテゴリーに関するパタン分類の数量化、あるいは相関表の数量化——これは国と回答カテゴリーの間の相関関係を最大にする数量化と等価になる（林（1993b）））を行なった。この結果、国の布置、第1軸×第2軸（ ${}^1X \times {}^2X$ ）をみると図1のようになり、予想した通りの日本（J）・アメリカ（A）・フランス（F）とイタリア（I）を頂点とする三極構造の図柄があらわれてきた。但し、アメリカ・フランス間の距離は、それらの国々の日本との距離よりも小さくなっている。そして、日本、ハワイ日系人（JA）、ブラジル日系人（JB）の関係が日本、アメリカ、フランスの関係の縮図になっているのである。もう少し詳しくみると、アメリカに近くイギリス（E）があり、アメリカ・イギリスとイタリア・フランスの間にドイツ（G）が位置する。イギリス、ドイツ、オランダ（H）が小さい三角形を作っている。図1の布置で矢印がついているのは第3軸目（ ${}^3X$ ）を表わすが（左上方向の矢印は ${}^3X$ がプラス、右下方向の矢印は ${}^3X$ がマイナスであることを示す）、フランス、ドイツ、オランダのヨーロッパ大陸の国は同じ方向（イタリアは小さいが逆方向にあるのが例外）であり、アメリカ、イギリス、JA、JBが反対側にある。

常識的にみて首肯できるものといってよい。こうして、一応の納得できる形が、回答分布の差異の総合として表現されたことは興味深い。単純集計のもつ深遠な意義が理解されよう。マクロ分析の立場から示されたこの日本の位置付け、7カ国と日系人の位置付けは、互いに近いところから徐々に比較の鎖を広げていくCLAの考え方による国際比較調査の意義を示しているものである。

このような相互関係をマクロで捉えた上で、本論では、調査質問の様々な領域それぞれについて、国際比較の中から日本人の国民性といわれるものをみていくこととする。

1. 国際比較からみた日本人の特性

1.1 人間関係

日本における大きな特色といわれている人間関係に関するものうち、義理人情に関係する

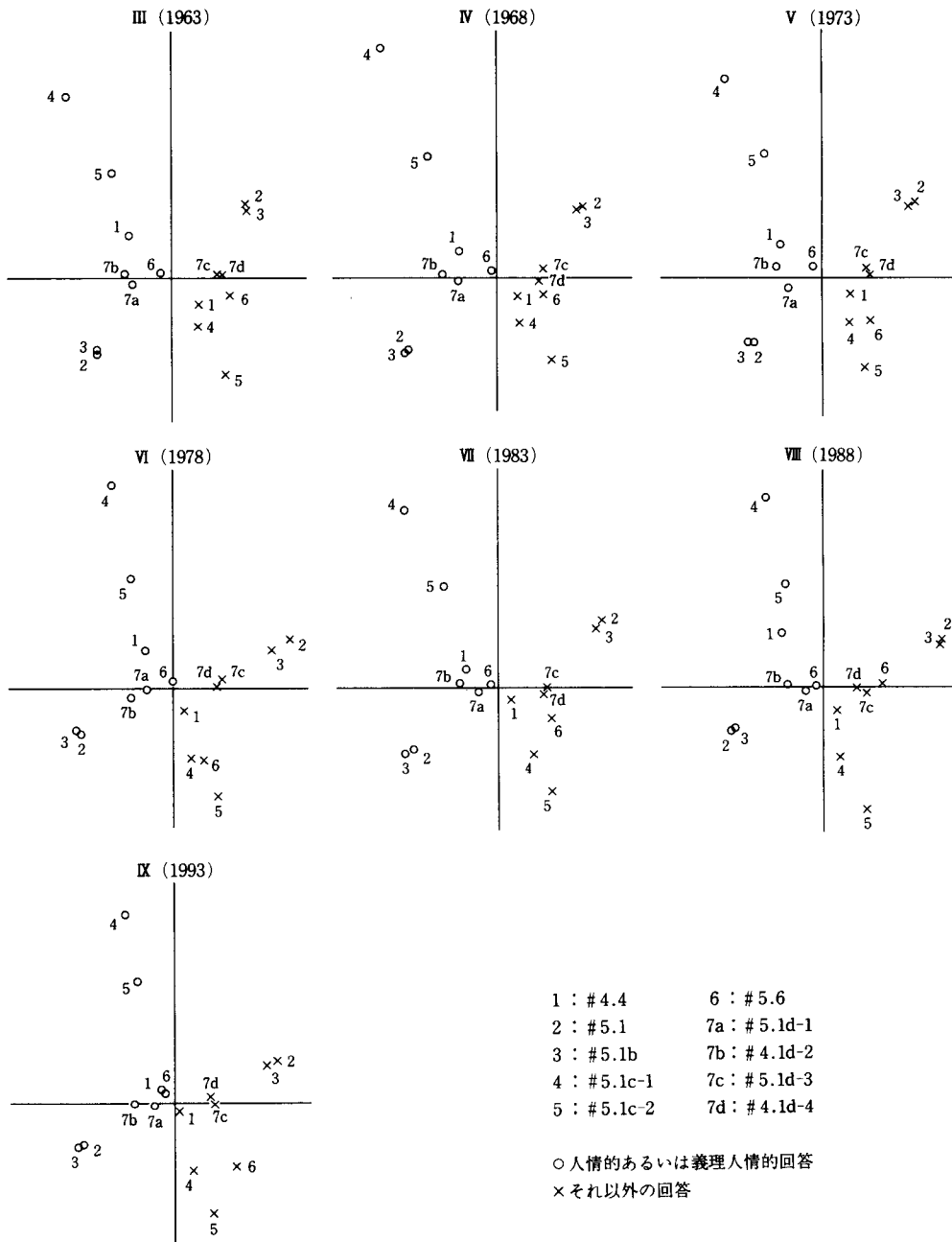


図2. 義理人情の考え方の構造の安定性。



類の数量化を用いてみると、結果は図2のようになり、30年間まったく安定した構造を示している。第1軸 ( $^1X$ ) で、人情的、義理人情的回答とそうでない回答が左右にきれいにわかれ、こうした考え方の存在の安定性が認められたといつてよい。第2軸 ( $^2X$ ) をみると、第2・第3問 (#5.1・#5.1b) と第4・第5問 (#5.1c-1・#5.1c-2) が上下にわかれるという関係であつて、これは問における会社の場面設定の差異である。 $^2X$  がこの両者の回答をわけているということは、両場面に対して第2次的に異なる考え方が働くことを意味している。人情的・義理人情的あるいは人情的・義理人情的でない考え方の中での差異といふことができる。

このように安定した構造、つまり人情的・義理人情的とそうでないものを対比させて考える考え方の根深さ、根強さが示されているといふことができる。

また、全体的傾向だけではなく年齢別に見るとき、20歳台のみ他の年代の図柄を90°弱回転した形の図柄になっているものもまま見られるが、年齢が上がると通常の形になり、大局的にいえば各年齢層で抜本的な差異がないのは注目すべきであり、上に述べた根深さ、根強さを裏書きするものがあるといえよう (林 (1993a))。

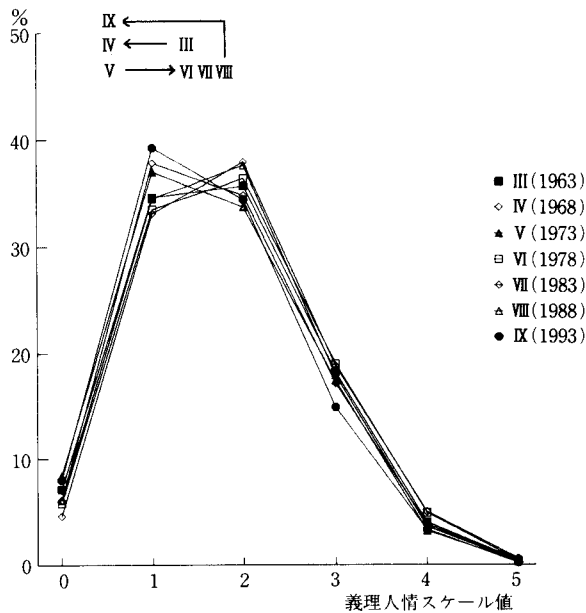
これと同様の問題について、ハワイ日系人 (1971年, 1978年, 1983年)、ハワイ住民 (1988年)、アメリカ人 (1978年と1988年)、イギリス、ドイツ、フランス (いずれも1987年) のデータについて行なってみると、かなり異なった図柄が得られた。先に示した国民性調査の第III次、第V次、第VIII次のものも加えて、この図柄に現れた意見構造の違いを捉えるため、相互に図柄の対応する点の距離の総和 (回転してみても距離の総和が最も小さくなる場所の距離) を求め、図柄の非親近性マトリックスを作った。さらに、この非親近性測度のファジー性から、非親近性を3段階に分類したマトリックスに作りなおした (表3)。これを基にMDA-OR (多次元尺度解析法、MDSの一方法でランクのついた群分けに基づくもの) (林・鮑戸 (1984)) を用いると、図3のような諸国の布置が得られた。日本におけるデータの安定性と他国との関係が明瞭になり、日系人が日本とアメリカとの間にきているという姿が出ていて興味深い。

なお、ハワイの日系人、ブラジル日系人のデータの義理人情構造の図柄は、共に、日本人の図柄を90°回転した形であり、点の相対位置は、第4問、第5問を別にすれば、大体日本の場合に近い形が得られている。日系人同士は、他の国より日本に近い形であることは注目に値しよう (ブラジル日系人意識調査委員会 (1993))。

このようにみえてくると、こうした心の構図は、安定性の点からも外国との関係からも、日本の一つの特徴とみることができる。

表4. 義理人情スケールの構成法。

質		問	義理人情回答	各質問のスケール値
付録1の問番号	#番号	問の内容		
第1問	#4.4	先生が悪いことをした	1 そんなことはないという	1
{	第2問	#5.1 #5.1b	{ 1 故郷へ帰る 2 会議に出る }	1
	第3問			
{	第4問	#5.1c-1 #5.1c-2	{ 1 1番の人 2 恩人の子 }	1
	第5問			
第6問	#5.6	使われたい課長	2 めんどくみる課長	1
第7問	#5.1d	大切な道徳	{ 1 親孝行 2 恩返し }	1



注) VII (1983) と VIII (1988) はほとんど同じ分布である。  
 1993年はこの分布においてもやや義理人情的でない方に傾くように見えている。この点を少し検討してみる必要がある。1993年調査は1988年調査と比べて調査条件が多少異なったために、その他・DKの比率(%)の変化が全般的にみると傾向的にやや多目になっている。

	その他・DK		義理人情的回答	
	1988	1993	1988	1993
# 4.1	15	17	23	24
# 5.1×# 5.1b	10	10	10	9
# 5.1c-1×# 5.1c-2	9	12	26	21
# 5.6	4	5	87	82
# 5.1d	1	4	34	31

一方、非義理人情的回答は、上述の質問の順に# 4.1では62→59(逆に減少)、# 5.1×# 5.1bでは“親のとき故郷へ帰る”がへり、“会議出席”が多くなる傾向(4~5%)があるが、“恩人のとき会議”は1%の差しかない。# 5.1c-1×# 5.1c-2でも1%の差で変化はない、# 5.6も10%→12%で一方向に大きく傾向がズレていることはない。# 5.1dも1%の差しかない。義理人情的回答と、その他・DKの関係で義理人情スケールが減少気味になっているということができよう。

図4. 義理人情スケールの分布。

次に、義理人情スケールによる意見分布という点から検討してみよう。前述の附録1の質問から表4のようにして義理人情スケールを構成した。この内容をみると厳しい義理人情的な評価のスケールであるということが出来る。つまり第2問と第3問の設定条件の違い、第4問と第5問の設定条件の違いに対しては、それぞれ態度を変えろという義理人情のステレオタイプ、第7問(# 5.1d)では、2つとも旧来の道徳を選択するというもののみを取り上げているのである。

義理人情スケール値は最小が0、最大が5であり、大きいほど義理人情的であることを示す。日本人の国民性調査第III次~第IX次の分布は図4に示すが、全体的にみて、スケール値1と2とに山があり、0はごく少数という形である。日本人といっても、いつも義理人情的な回答をするわけではなく、あるときは義理人情的、あるときは他の条件を考えあわせて義理人情的でな





表6. 各国の義理人情スケール分布の比較.

スケール値	国民性調査								ハワイ		ﾌﾞﾗｼﾞﾙ	ﾌﾞﾙｶ	ｲﾀﾘｱ	ﾌﾗﾝｽ
	III 1963	IV 1968	V 1973	VI 1978	VII 1983	VIII 1988	IX 1993	日系 1988	非日系 1988	日系 1991	本土 1988	ｲﾀﾘｱ 1987	ﾄﾞｲﾂ 1987	ﾌﾗﾝｽ 1988
0	7	6	8	6	5	6	8	25	34	17	34	24	21	21
3以上	23	22	21	24	24	22	18	5	3	12	2	5	4	7

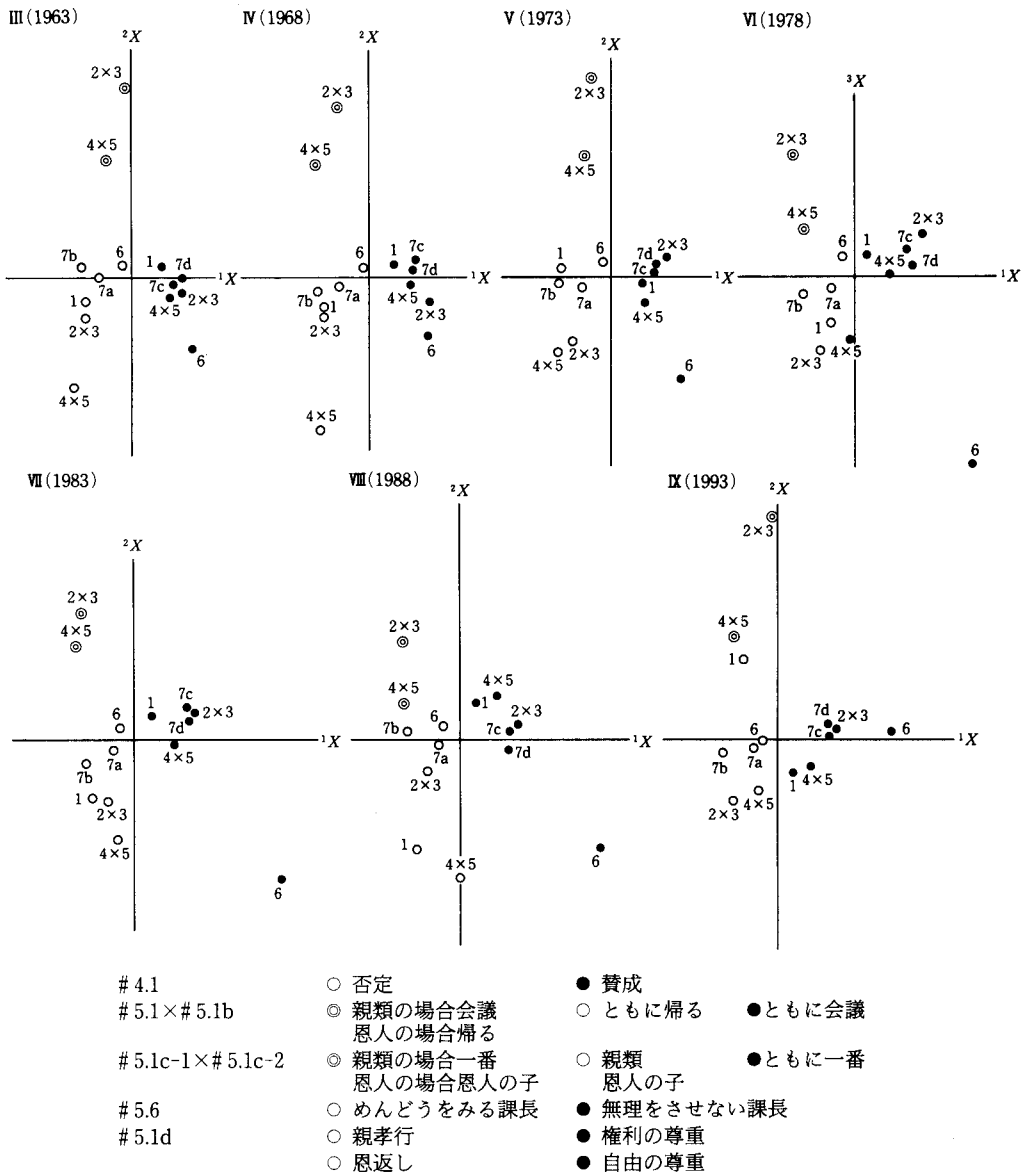


図5. 義理人情的態度の構造の不変性.

ABIM：本土生れの非日系

ABIO：アメリカ本土以外の生れの非日系

JA-A：日系人でアメリカ的なライフスタイルをより多くもつもの

JA-J：日系人でより日本人的なライフスタイルをもつもの

にグループ分けして、それぞれに義理人情スケールの分布をとったのが図6(a)である。ABIM, ABIO, JA-A, JA-Jと順にきれいに分布が右側にずれてくる。つまり、順に義理人情的になっている姿が現れている。これはスケール値0の率の順序とも符合している。このように次第に

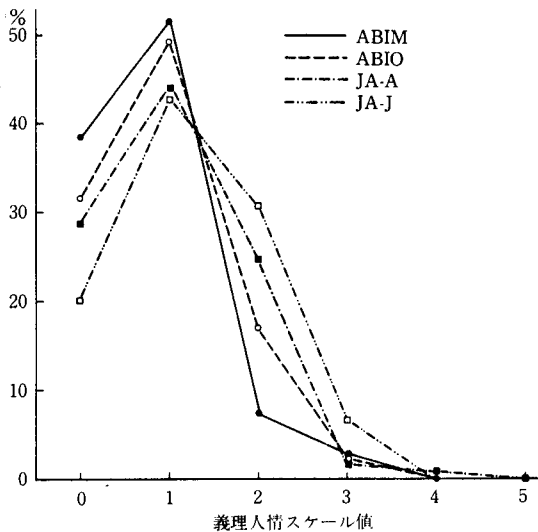


図6(a). ハワイ住民のグループ別義理人情スケール分布。

日本寄りになっているということ、上述のように日系人が日本人とアメリカ人との間に入ってくることを考えあわせてみると、やはり、我々が義理人情的と言っている人間関係の問題において、今日の日本人もその特色をもっているといつてよいと考えられる。このように日系人を介して順次異なったものになっていく姿がとらえられたところに、ハワイ日系人調査の意義があり面白いところである。

また、ブラジル日系人を加えた分布を図6(b)に示す。ブラジル日系人がハワイ日系人よりも日本に近い形をしていることがわかる。なお、世代別にみるとブラジルの1世は日本全体よりも義理人情的である。しかし、高年齢層の多い1世よりも、日本の高年齢層の方がややより義理人情的である。ブラジルの日系2世+3世がハワイの日系人に近い(0の比率が20%, 3以上が9%)が、これとても外国人にくらべて日本寄りとみることができる。

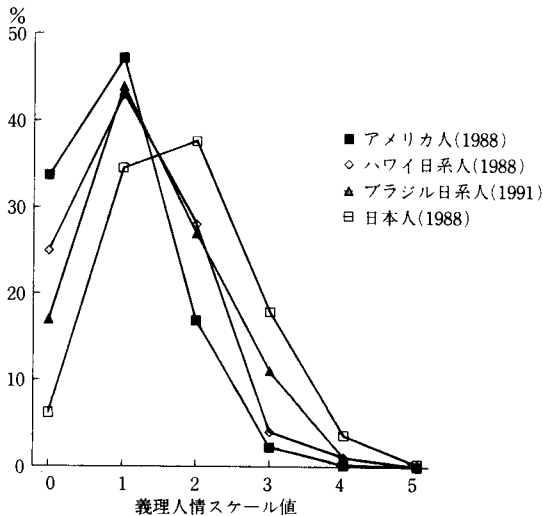


図6(b). 日系人とアメリカ、日本の義理人情スケール分布。

繰り返すようであるが、こうみえてくと義理人情的というのは、当然のことながらやはり日本的な考え方といふことができる。

つぎに、同じ質問を用い、人間関係における人情スケール(私情を重んずるスケール, affection scale, 心の暖かさのスケール)というものを作ってみた。その作り方は表7(a)に示す通りであるが、スケール値は0から8までとなり、値が大きいほど人情的あるいは私情を重んじる傾向を示す。大局的に見易くするため、スケール値5以上の比率を出したのが表7(b)である。アメリカ人、イギリス人が低く、日本人(国

表7(a). 人情スケール構成法.

質 問			義理人情回答	各質問の スケール値
付録1の 問番号	#番号	問の内容		
第1問	#4.4	先生が悪いことをした	1 そんなことはないという	1
第2問	#5.1	恩人がキトクするとき	1 故郷へ帰る	1
第3問	#5.1b	親がキトクするとき	1 故郷へ帰る	1
第4問	#5.1c-1	入社試験(親戚)	2 親戚	1
第5問	#5.1c-2	入社試験(恩人の子)	2 恩人の子	1
第6問	#5.6	使われたい課長	2 めんどくみる課長	1
第7問	#5.1d	大切な道徳	1 親孝行 2 恩返し	1 1

表7(b). 人情スケール5以上の比率.

ドイツ人	33%
フランス人	35
イギリス人	27
アメリカ人	23
ハワイの非日系人	19
ハワイの日系人	29
ブラジルの日系人	34
日本人	38

際比較調査における日本人データによる)が高い。この間にブラジル日系人、ハワイの日系人が入っている。ドイツ人、フランス人はかなり高く出ているのも面白い。

人間関係のさらに突込んだ分析をする前にイソップ物語との関係のみよう(ブラジル日系人意識調査委員会(1993), Hayashi(1992d), 林・鈴木(1986)). イソップ物語の中の“アリとキリギリス”の話についての回答である(#7.82)。この話は、“アリとセミ”あるいは“キリギリスとアリ”“セミとアリ”として親しまれているが、

このことについては、詳しく述べたものがあるのでそれに譲る(林・米沢(1982))。この質問文は、まずアリとキリギリスの話を示し、回答として“1. 夏の間怠けていたのだから、困るのが当然だと追い返してしまう”“2. 怠けていたのはいけないけれども、これからはちゃんと働くのですよ、といさめた上で、食べ物わけてあげる”を示し、この話の結びとして、“この中のどちらが自分の気持ちにじっくりしますか”という形で回答をとるのである。それぞれの国での回答は以下の通りである。

	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日系アメリカ人	日系ブラジル人	日本*
1の型の回答	13%	14%	13%	12%	9%	20%	15%
2の型の回答	78%	79%	83%	85%	91%	78%	75%

\* 国際比較調査の日本A調査による

日本人は心がやさしいから2の型が多いという意見が文献に基づく考察で論じられているが、むしろ少なめであることに注目したい。これはこれとして、この2つの回答と心のやさしさとの関係のみよう。ここでは、人間関係における暖かさ、柔らかさ、人情好みとも言うべきものとの関係を取りあげてみる。そのため、前述のように人間関係における暖かさ、私情を重んじる人情スケールを作ったのである。

この人情スケール5以上の比率を、1の型の回答(S1と示す)と2の型の回答(S2と示す)別にみると表8(a)のようになる。ブラジル日系人については別に述べることとし、まずその他のところを見ていくと、ハワイ、日本以外ではS1, S2の回答者間で比率の差が全くないが、ハワイ、日本ではS2の回答者の方がスケール値5以上の比率が高く、人間関係の暖かさ、柔らかさ好みが多くなっている。この関連性は注目してよい。S2の方の回答と人間関係の暖かさ、柔らかさを関係付けて考える、そのことが日本的考え方なのではないか、ということである。

さて、ブラジル日系人は、人間関係の暖かさを全体的にみると、前述のように、人情スケール値5以上を示すものが34%と高く、ハワイ日系人より日本人に近い（ドイツ、フランス並み）。ところが、S1とS2の関係で、日本人、ハワイ日系人と全く異なる関係が見られているのである。問題は、どうしてブラジル日系人のみが、S1と回答した方がスケール値が高いかということ、これを考えなくてはならない。

このところを少し詳しく見るため、S1, S2と答えるものそれぞれに人情スケールの分布の状況をみよう（表8(b)）。スケール値4と5の間で分布がきれいに入れ替わっているのがわかり、分析の結果がシステマティックである。日本・ハワイにおいては私情を重んじる心の暖かさとイソップの結末とがダイレクトに結び付くが、これとは異なる考えの筋道がブラジル日系人に見られているわけである。

イソップ物語の「食べ物を与えない」というのは怠惰に対する戒めの教訓として共感を表明するということであり、厳格な建前に同感する気持ちである。こういう建前をとる人の心が、私的信義（私情を重んずる暖かい心）にかたむく、ということではないかと思われる。怠惰には、明確にけじめをつけることと私情を重んずる・人情の暖かきの好みと呼応する形と見れば理解できる。いわゆる「古い」方の考えの筋道を含むものが現出しているように考えられる。一方、食べ物を与える方の回答は、心の暖かきとあまり関係がない欧米タイプの考え方と思われるのである。ここでは、ブラジル日系人に、今日の日本で見られないような昔流とも見える考えの筋道が見られるということ、日本やハワイに見られるようなダイレクトな関連ではなく、屈折した結び付きが出ているということができよう（ブラジル日系人意識調査委員会（1993））。

人間関係についてももう少し述べておく。国際比較調査で使われた人間関係の質問はこのほかいくつかあるが、次の4つを取り上げ、上に述べてきた人情スケールも含めて5つの面での各国の特徴をみたものである。

- A. 義理人情の質問の第6問（#5.6），“めんどうをみる課長”を好む
- B. “すじを通すこと”と“まるくおさめること”のどちらの人柄が好きか（#2.2b）で“まるくおさめることに重点をおく人”を好む
- C. 就職の条件（#7.24）で，“俸給の高いこと”，“倒産のおそれのないこと”，“気の合った仲間と働けること”，“やりとげたという感じのもてる仕事”，から“気の合う仲間と働

表8(a). イソップ物語の回答別の人情スケール5以上の比率（%）。

	ドイツ人	フランス人	イギリス人	アメリカ人	ハワイ 非日系人	ハワイ 日系人	ブラジル 日系人	日本人
1の型の回答(S1)	36	40	28	24	10	18	60	32
2の型の回答(S2)	34	36	28	23	20*	31*	27*	40*

注）\*は有意の差（信頼度 0.95）

表8(b). ブラジル日系人におけるイソップ物語の回答と人情スケール。

スケール値	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
S 1		2	1	7	14	17	30	22	8	0
S 2		1	3	8	25	36	16	7	4	0

けること”を選ぶ

- D. 生活領域のそれぞれについて重要度を尋ねる質問で“友人・知人について” (#5.81d) の重要だと思ふ程度の高いこと (7点評価スケールで6と7の合計の比率)

各国別のこれらの回答の比率の比較をみたのが表9(a)である。見やすくするために人間関係重視の順位をつけたのが表9(b)である。

ランクの和の少ない順 (高いランクのもの, 即ち人間関係重視の傾向の強いもの, 人間関係が暖かいと見える——日本人の立場から——傾向) をみると, 日本, ブラジル日系人, ハワイ日系人, ドイツ人, フランス人, ハワイ非日系人, イギリス人, アメリカ人の順となる。人間関係という面において, 日本の暖かさ好みとアメリカのドライな好みが両極にあり, 日系人 (ブラジル, ハワイ) が日本寄りの中間にあり, 非日系 (ハワイ) はイギリスと共にアメリカ寄りの中

表9(a). 人間関係重視の傾向 (%)。

	ブ		ハ		フ		イ	
	ラ	ハ	ワ	イ	ア	ド	ラ	ギ
	日	ル	イ	非	メ	ド	ラ	ギ
	本	系	系	系	カ	ツ	ス	ス
人情スケール5以上の比率	38	34	29	19	23	33	35	27
A めんどうをみる課長	80	68	59	57	51	69	64	57
B まるくおさめる人を好む	68	67	72	67	47	62	66	52
C 気の合う人	29	12	22	13	11	20	7	15
D 友人・知人非常に大事	67	78	65	58	63	63	49	57

- 注 1) A (#5.6) “めんどうをみる課長” 回答の率  
 B (#2.2b) “まるくおさめることに重点をおく人” 回答の率  
 C (#7.24) “気の合う仲間と働けること” 回答の率  
 D (#5.81d) 重要度7点評価スケールで6と7の合計の比率  
 2) 日本は国際比較調査のデータ

表9(b). 人間関係重視の傾向 (ランク)。

	ブ		ハ		フ		イ	
	ラ	ハ	ワ	イ	ア	ド	ラ	ギ
	日	ル	イ	非	メ	ド	ラ	ギ
	本	系	系	系	カ	ツ	ス	ス
Affection Scale 5以上の比率	1	2	5	8	7	2	2	6
A めんどうをみる課長	1	2	5	6	8	2	4	6
B まるくおさめる人を好む	2	2	1	2	8	6	2	7
C 気の合う人	1	5	2	5	5	3	8	4
D 友人・知人非常に大事	2	1	3	6	4	4	8	6
ランクの和	7	12	16	27	32	17	24	29

注) 1%の差は同順とした

間にある。ドイツはかなり暖かい方である。フランスは前3者の面では暖かい好みであるが後の2つで異なった反応をしており、考えの筋道が明らかに異なる。この点アメリカも少し異なるようであるが、全体的にドライである。いずれにせよ、日系人は人間関係において日本寄りの鎖を示し、他国との間にある。ハワイ日系人の“めんどろをみる課長”のみがアメリカ寄りであるのは注目してよい。ブラジル日系人の“気の合う仲間と働きたい”の順位が低い、ハワイの日系人とブラジルの日系人は総合的には似ており、ともに日本寄りであり、ブラジルの方が一層日本寄りである。

ながながと人間関係について論じてきたが、日系人、外国人のデータをあわせて考えると、人間関係のさまざまな面の重視が日本人の特色であると見ることができよう。そしてこれがいつもプラスに作用するわけではなく、あるときはプラス、ある面ではマイナスに作用するわけであるが、これが容易に抜け切れないところが日本人らしさであることが理解できよう。

## 1.2 中間的意見・中間回答について

日本人に中間的意見が多いということは気がついており、東京都区部（ランダムサンプル）においてこれを中心とする調査は試みていた。その中で、言葉によるもの（“一概にいえぬ”、“時と場合による”、“どちらともいえぬ”等）だけでなく、5個のオハジキを用い、賛成・反対の気持ちをオハジキの多さで表わすという恒常和法を用いた研究も行ない、不十分ながら在京米英人（ジャパントイムズの購読者名簿からランダムに抽出）との比較を行なっている（林・鈴木（1986））。

まず中間回答が言葉である質問（表10）についてみよう。面接調査であるが、回答者に回答肢は示さずに、調査員がプリコードした調査票に回答を記入する方法をとっている。結果は図7に示す。全般的にみて日本人の方に中間的な意見・回答が多いことがわかる。

次にオハジキによる回答を使った質問である。決まった数のオハジキを各回答肢に配分することによって同意の程度をあらわすという回答方法である。ここで用いた質問文を示す。(1)～(4)の4問それぞれについて、アとイの回答選択肢を回答者に見せ、5個のオハジキを配分してもらおうという方式である。

表10. 中間回答のある質問。

- |            |  |
|------------|--|
| 質問1 (#4.4) | 小学校に行っているくらいの子どもを育てるのに、次のような意見があります。「小さいときから、お金は人にとって、一番大切なものだ」と教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？ |
|            | 1. 賛成  |
|            | 2. 反対  |
|            | 3. いちがいにはいえぬ   |
| 質問2 (#7.1) | こういう意見があります。「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になってくるが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか。それとも反対ですか？         |
|            | 1. 賛成（人間らしさはへる）  |
|            | 2. いちがいにはいえぬ   |
|            | 3. 反対（人間らしさは不変、ふえる）  |
| 質問3 (#2.1) | あなたは、自分が正しいと思えば世の中のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか。それとも、世間のしきたりに従った方がまちがいないと思いますか？                            |
|            | 1. 押し通せ  |
|            | 2. 従え  |
|            | 3. 場合による   |

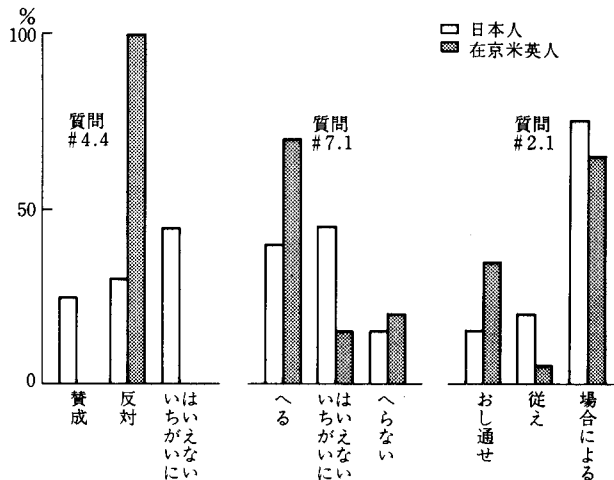


図7. 中間回答のある質問の回答分布 (日本人と在京米英人).

オハジキによる回答を使った質問

質問 政治のあり方として、次のそれぞれのどちらがより大切だと思いますか？  
 大切と思われる割合によって、この5つのオハジキを分けてみてください。  
 大切な方より多く、大切でない方より少なく分けることになります。  
 [回答肢のリスト提示、オハジキ5個使用]

オハジキ配分

- (1) ア 国民にあまりこまかいことは知らせないが、問題にいちちやく対応する政治 ( ) 個
- イ 対応が遅れることがあっても、国民に一から十までこまかくわしく知らせる政治 ( ) 個
- (2) ア 国民の大多数が納得するまでは、ものごとに手をつけない政治 ( ) 個
- イ 少数の反対意見は出ても、強い指導力をもって、実行していく政治 ( ) 個
- (3) ア 現在の国民の負担がふえることがあっても、将来の財政を見通して、先手・先手を打っていく政治 ( ) 個
- イ 将来、国の財政状態が悪化する可能性があっても、現在の国民の負担をふやさない政治 ( ) 個
- (4) ア 手間やお金がかかっても、声なき声を尊重し、困っている人に思いやりのある政治 ( ) 個
- イ こまかい点の配慮に多少欠けることがあっても、効率がよく、お金のかからない政治 ( ) 個

結果は図8に示す通りである。‘2-3または3-2’は、5個のオハジキを一方の意見に3個、他方の意見に2個を配分する、またはその逆に3個と2個に配分するというを示す。これがいわば中間的な回答で、正に四分六分感覚（平衡感覚という人もいる）による回答である。日本人にこれが多いことが読みとれる。

そこで、国際比較調査（日本、ハワイ、アメリカ本土、イギリス、ドイツ、フランス）の質問のうち、中間回答のある質問11問全てを用いて、中間回答の様子をみてみよう。各個人が中間回答を何個したかをスケール値として、その分布を描いてみたところ、図9のようになった。日本ではA調査とB調査の2種類の調査があった（質問項目は同一であるが質問文にいいまわしが少し異なるものを含んでいる）が、図に見られるようにまったく同じ分布を示し安定してい



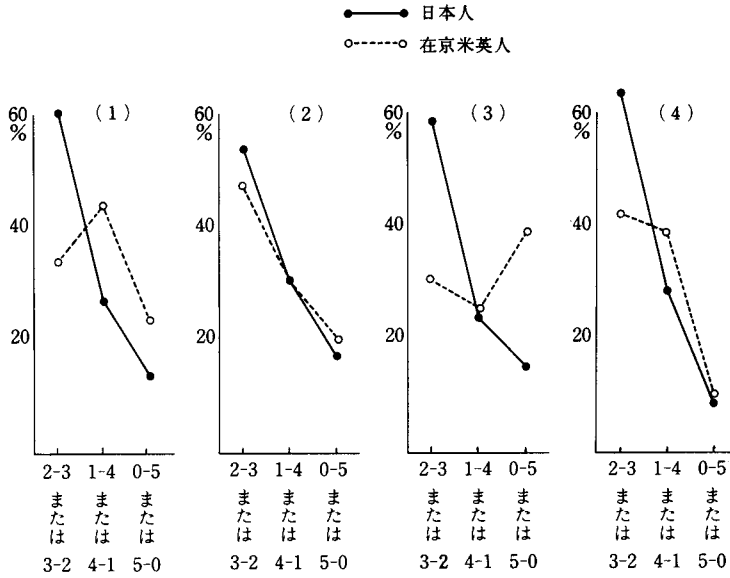


図8. オハジキ配分の分布.

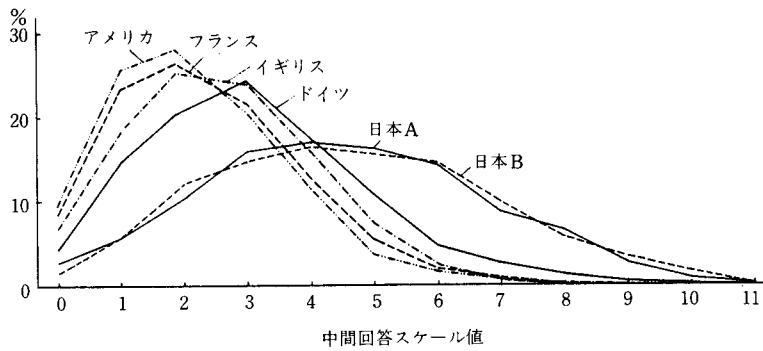


図9. 5カ国における中間回答スケール分布.

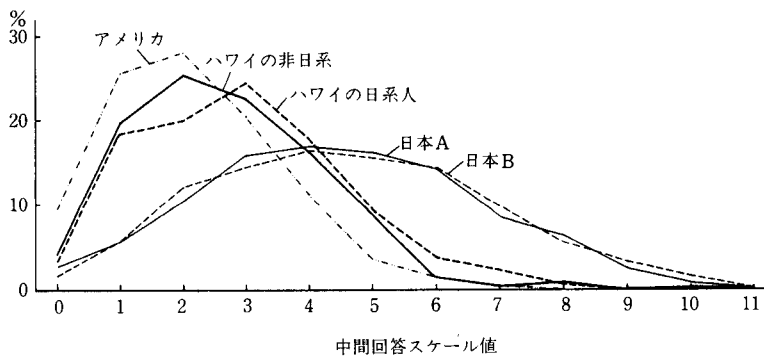


図10. 日本、ハワイ、アメリカにおける中間回答スケール分布.

ることがわかる。中位のところに山があり、分散が大きい。アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスについての分布は左寄り、中間回答をするものがより少ないことを示しており、アメリカが最も中間回答が少ない。フランス、イギリス、ドイツの順に分布が右に寄る（中間回答が多めになる）が、日本とは大きく開いており、最初に示した在日英米人の調査結果を裏書きするデータが出ていることがわかる。

ここでまた、ハワイの日系人を用い、日本人と外国人との関係の橋渡しにしてみよう。図10にみられるように、ここでも日系人が日本人寄りに動いている分布を示していることがみられる。

さらにブラジル日系人についてしらべてみると、図11のようになった（ブラジル日系人調査では前記11問中1問は調査質問に入れなかったため、調査した10問で中間回答スケールを作成し、これと比較する各国のスケール値もこれにそろえて計算し直したもの）。ブラジル日系人に中間的回答が多いことがわかる。詳しくみると、ブラジル日系人は0の比率も多いが、4以上の比率も多いという、いわば、二極的構造を持っていることが知られる（詳しくはブラジル日系人意識調査委員会（1993）参照）。見易くするために0の比率（中間回答の少ない方）と、4以上の比率（中間回答の多い方）を縦軸横軸に目盛ったのが図12である。日系人がフランス人、アメリカ人よりもより日本人的であることが読みとれる。

こうした点からみて、中間回答をより多くするという傾向が日本人の特色であるとみてよいと考えられるが、日本における中間回答スケール分布を年齢別にみてみよう（表11）。高年齢の方がスケール値が低い傾向（高年齢層が低目とはいっても、日本以外とはかけ離れている）で、若い方に中間的な回答が、高年齢層よりも多目になっていることも注目してよい。

しかし、この調査は一時点のものである。そこで、国民性調査の質問文のうち中間回答のあるものを抜き出して時系列をとってみた。図13のように凹凸はあるが、全般的、大局的にみると、中間回答は減少傾向にはないとみられる。むしろ増加傾向にあるといってよい。第IX次（1993年）も第VIII次（1988年）から減少するものは1つもなく、5%以上の増加もみられ、従来の方向が引続き現れていると見ることができる。このように見てくると、中間回答好みの傾向は安定して存在したのではないかと考えてよかろう。

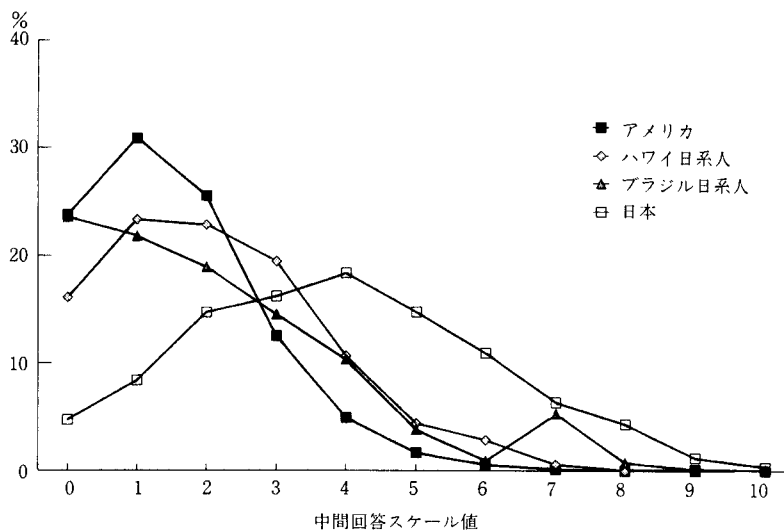


図11. 日系人の中間回答スケール分布。

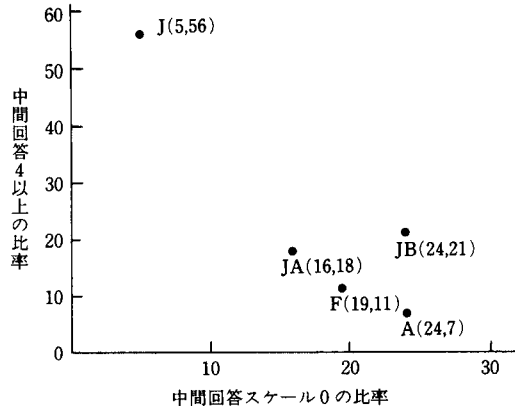
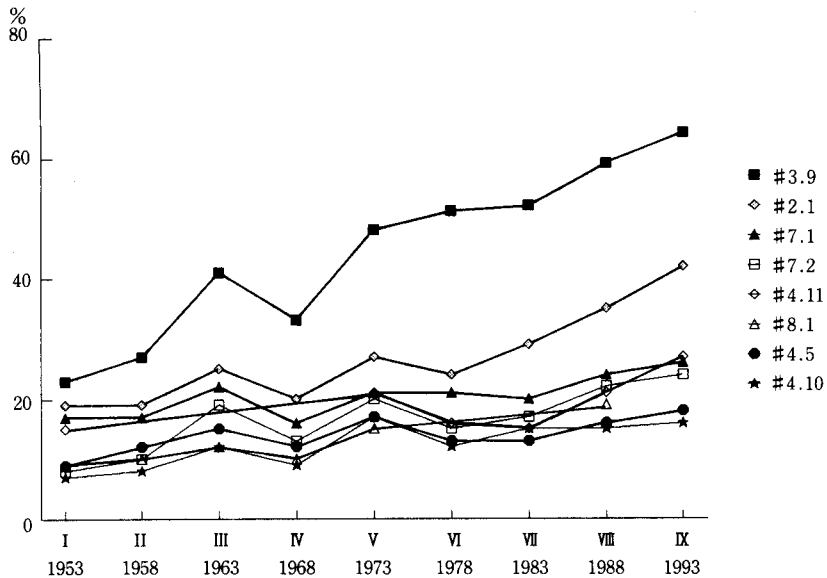


図 12. 中間回答スケールの分布による国の配置。

表 11. 日本人の中間回答スケール分布 (%)。

年齢	中間回答スケール											計	サンプル数	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			11
20代	1	3	8	15	16	16	17	13	8	3	0	0	100	360
30代	2	3	9	16	17	18	17	8	6	3	1	0	100	438
40代	2	3	10	15	18	19	13	7	7	4	2	0	100	492
50代	3	8	10	17	18	12	14	8	6	2	1	1	100	453
60以上	5	10	13	16	16	15	12	7	5	1	0	0	100	522



注) #8.1は第V次までは中間回答があったが、以後はない。第VIII次のデータは第V次までの質問文を用いた国際比較調査のデータである。

図 13. 中間回答の変遷。

ここまでくれば、この好みも日本的な特性といえることができる。なお、ここには相対主義的な見方の増大と見做せるものもあり、この点も無視できないものがある。また、この中間的回答の好みは、日本人の特色の中の一つというよりも、日本人の態度構造の中核をなす（両極の明確な意見をもつものは少数である）のではないかと考えられるが、この観点からの分析は未だ不十分である。しかし他の調査だが、原子力発電に対する態度において明確な形が現れている（林（1994））ことを付言しておこう。

以上、人間関係、中間回答を分析してみて、日系人は、日本人とかなり似た傾向を示していることを知った。日系人調査は言うまでもなく、英語、ポルトガル語であり、日本語を話すことは例外である。それを越えて日系人に見られるこうした傾向は、日本の特色の保持と見做すことができ、日本の大きな特色と見ることができよう。このようなものを J-attitude と名付けているが、少なくとも上述の2つは、J-attitude の特色を示していると言っていることができるだろう。

### 1.3 極端な表現が少ないこと

これは中間的回答の多いことと呼応するのであるが、極端な表現を好まない傾向がある（林（1988））。“非常に賛成”が少ない、“まあ賛成”が多いという形である。日本人の学生に英語と日本語で調査をすると、日本語の場合は“非常に賛成”とあまり言わないが、英語の場合は“Strongly agree”の回答が多くなるという結果がある（林・鈴木（1986））。何が本当かを調べる方法はないが、日本語の場合に表現が控え目であることは確かである。たとえば、“幸福を感じるか”，で“非常に感じる”，“まあ感じる”をあわせると各国とも大差はないが，“非常に”という所で差が出るわけで、こうした傾向のあることは心に留めておく必要があるだろう。また、この問題は中間的回答の分析と同じ傾向がある。たとえば，“賛成”，“どちらかといえば賛成”，“どちらかといえば反対”，“反対”のような段階のついた回答の質問を数問集めて数量化 III 類を用いると、各質問の中2つの回答は中央に入りまじり、区別しがたい中間的回答と見做せる、という場合をよく経験している。段階のついた回答で国際比較がなされることがよくあるが、こうした点に気をつけるべきである。

### 1.4 自信と自虐意識

日本人が戦後経済の発展と共に自信を持ち始めてきたことはデータにはっきり現れている。“日本人は一口で言って西洋人にくらべて優れていると思うか”という質問（#9.6）である。結果は図 14 に示す通りである。1993 年では“すぐれている”の減少分だけ“同じだ”が増大している——タテマエ的回答の大きな増大——が、大局的には“すぐれている”が一番多い。これを見て、ナショナリズムの復活という意見の人がいるが、これは妥当ではない。自信の増大であり、他のいくつかの調査によれば愛国心は低く、“外国から攻められたとき国を護るために自ら戦う”という回答も非常に高いわけではない。従来のナショナリズムと受けとるべきものではない。

さて、このように自信は増大しても日本人はものの悪い面に気が走るということ（自虐意識）が見られる。このことをみた東京都 23 区のランダムサンプルによる実験調査がある（林・鈴木（1986））。質問文と回答分布を表 12 に示すが、もとの問題はミシガン大学社会調査研究所「アメリカ人の生活の質」調査の信頼感の質問であり、ここで頭ありというのは、各質問でアンダーラインの部分を追加したものである。この質問文による調査結果は、頭を付けずに質問した場合に比べてネガティブな回答（不信頼）が少ないのである。良い面と悪い面の両方があること

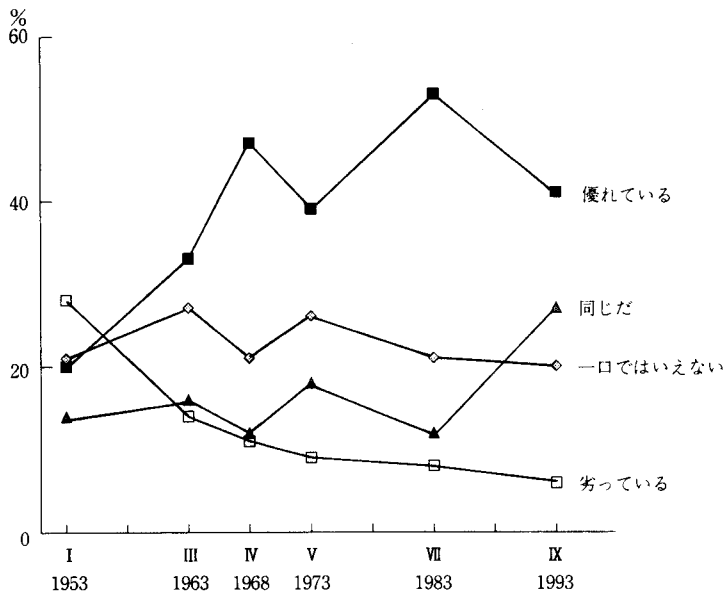


図 14. 日本人・西洋人の優劣.

表 12. 頭付き質問による回答の変化.

質問	1980年 頭なし	1982年	1983年
		頭付き	頭付き
(下線部あり)			
質問 1 (#2.12) <u>他の人の手助けをしようとしている人もいますが、自分のことだけに気をくばっている人もいます。あなたのまわりを見たとき、たいていの方は、他人の役にたとうとしていると思いますか。それとも自分のことだけに気をくばっていると思いますか？</u>			
1. 他人の役にたとうとしている	17%	25%	24%
2. 自分ことだけに気をくばっている	79	69	66
3. その他	1	3	8
4. DK	3	3	3
質問 2 (#2.12b) <u>スキがあれば利用しようとしている人もいますが、そうでない人もいます。あなたのまわりをみたとき、たいていの方は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか。それとも、そんなことはないと思いますか？</u>			
1. 利用しようとしていると思う	46	29	25
2. そんなことはないと思う	52	67	71
3. その他	0	2	2
4. DK	2	2	2
質問 3 (#2.12c) <u>信頼できる人もいますが、用心した方がよい人もいます。あなたのまわりを見たとき、たいていの方は信頼できると思いますか。それとも用心するにこしたことはないと思いますか？</u>			
1. 信頼できると思う	29	43	49
2. 用心するにこしたことはないと思う	70	52	46
3. その他	0	4	3
4. DK	2	1	2

を意識させられるとポジティブな回答（信頼）が増えるが、ただ質問をされると悪い面がより注目され、ネガティブな回答になるように思われる。西平重喜氏は次のように興味ある記述をされている（西平（1992））。自虐意識とってよいものであろう。

‘ “次のうちから該当するもの（当てはまるもの）をいくつでも選んで下さい” という形の質問の場合アメリカ人は“やたらに”といいたいくなるように、たくさん項目を選ぶが、日本人は2つか3つしか答えない。たとえば「青年調査」で、11の選択肢のうち自分の国の誇りであると思うものをいくつでも選べという質問で、アメリカ人の青年は平均して5.5選択肢も選んでいるが、日本では平均2.4選択肢しか選ばない。その結果、すべての選択肢で、アメリカ人は日本人より高いパーセンテージを示している。

「青年調査」では“いくつでも選べ”という質問が12問、「欧州調査」では6問あったが、それらの全質問を通じて、各国の人々が平均いくつの選択肢を選んだかを見ると、日本人の選択は少なく、アメリカ人はたくさん選択肢を選ぶことがわかる。とくに日本人は直接に自分にかかわること、晴れがましいこと、ウヌボレと取られそうなことに対して遠慮する。しかし第三者としての批判や、嫌悪の情を表現する場合には外国人よりかなり多くの選択肢をあげるようである。’

なお、これに関連して、1973年から1993年まで5年毎に調査されたNHKの国民意識の調査（橋本・高橋（1994））があるが、それによると、誇り意識はかなり高いものの、“現在でも日本は外国に見習うべきことが多い”と考えているものは、70%から76%まで単調増加の様相を示しており、「習うこと好き」の態度がよみとれ、唯我独尊のナショナリズムの様相はみられないと言ってよさそう。

### 1.5 リーダーシップについて

これは、日本と中国との比較調査から得られたものである（林（1991, 1993a, 1994））。関連する質問は表13の通りであるが、分析には、質問1のリーダーの資質として重要な3つを選ぶ方のみ、質問2と3は後ろに記号を付記した回答肢、質問4の伝統的文化（道徳）に関する質問では記号を記入した7つの項目を用いた（これらの質問は、ハワイのEast-West CenterのG. Chu教授による）。それぞれの国別にパタン分類の数量化を試みたが、しかるべき結果は得られたもののそれほど面白いものではなかった。そこで日本・中国のデータ数をそろえて、ポンドサンプル（林・鈴木（1986））に対して数量化を行なってみると、きわめて明快な結果を得た。各質問回答カテゴリーの布置を図15に示すが、第1軸（ $^1X$ ）において日本と中国の特徴がきれいに分かれることを知った。つまり、第1軸の値のサンプルスコアの分布（図16）をみると、日本と中国がきれいに分かれ、マイナスが日本、プラスが中国となっている。0点を日本人と中国人を判別する分割点とすると、日中の判別成功率は88%と極めて高い。ここにとりあげたリーダーシップの質問による判別の予測力が極めて高いことを知るのである。

これほどまでに、リーダーシップが日中で異なっていることを示しているのは驚くべきことであった。回答カテゴリーの布置のマイナス寄りが日本的リーダーシップであり、プラス寄りが中国的リーダーシップである。敢えてその特色を書いてみると次のようになる。括弧内の数値は左が中国、右が日本の回答の%である。

表 13. 日中比較調査のリーダーシップに関する質問、伝統文化の質問（括弧付きの記号を記したものが分析に用いた項目、カテゴリー）。

質問 1 あなたの職場では良きリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。最も重要なもの3つと、最も重要でないもの3つを、次の中から選んで下さい。  
〔項目のリストを提示して回答をとる〕

	最も重要な3つ〇	最も重要でないもの3つ
1. 技術的に優れていること	(01)	
2. 部下を公平に扱うこと	(02)	
3. 部下に尊敬され、好かれていること	(03)	
4. 真剣に仕事に取り組むこと	(04)	
5. 人間関係がよい、顔が広いこと	(05)	
6. 仕事仲間に誠心誠意、接すること	(06)	
7. 決断力がある、断固としていること	(07)	
8. 判断力が優れていること	(08)	
9. 部下に利益をもたらすこと	(09)	
10. 年功を積んでいること	(10)	
11. よい階級の出身であること		

質問 2 公の問題は影響力も経験もある人に任せるべきだと思いますか。それともそのような問題は、決定される前に人々で論議すべきだと思いますか。

1. 影響力も経験もある人に任せるべきだ	(N1)
2. 人々で論議すべきだ	(N2)
3. わからない	

質問 3 リーダーとして次のどちらの人がいいですか。〔回答肢のリストを提示〕

1. 年輩で尊敬される人	(L1)
2. 若くて有能な人	(L2)
3. どちらでもない	

質問 4 次にわが国の伝統文化をいくつかあげてみました。それぞれについて、「誇りに感じる」「なくしてしまいたい」「どちらともいえない」のいずれかでお答え下さい。  
〔項目のリストを提示〕

	誇りに 感じる	なくして しまいたい	どちらとも いえない
a. 長い歴史的伝統	1	2	3
b. 勤勉と質素	1	2	3
c. 中庸の道	1 (C+)	2 (C-)	3
d. 親の慈悲深さと子の孝行	1 (D+)	2 (D-)	3
e. 国家への忠誠	1	2	3
f. 男女の差別	1	2	3
g. 女性は嫁ぐ前は父に、嫁いだら夫に、夫が死んだら子に従う三従と、四つの美德を持つ	1	2	3
h. 寛容と礼節	1 (H+)	2 (H-)	3
i. 先祖の名を汚さない	1	2	3
j. 農業を尊び商業をいやしむ	1	2	3
k. 女性の貞節	1	2	3
l. 権威への服従	1	2	3
m. 子孫繁栄	1 (M+)	2 (M-)	3
n. 和をもって貴しとなす	1 (N+)	2 (N-)	3
o. 仁義道德	1 (O+)	2 (O-)	3
p. 年長者への敬意と従順	1	2	3
q. 伝統を尊重	1	2	3
r. 分別	1 (R+)	2 (R-)	3

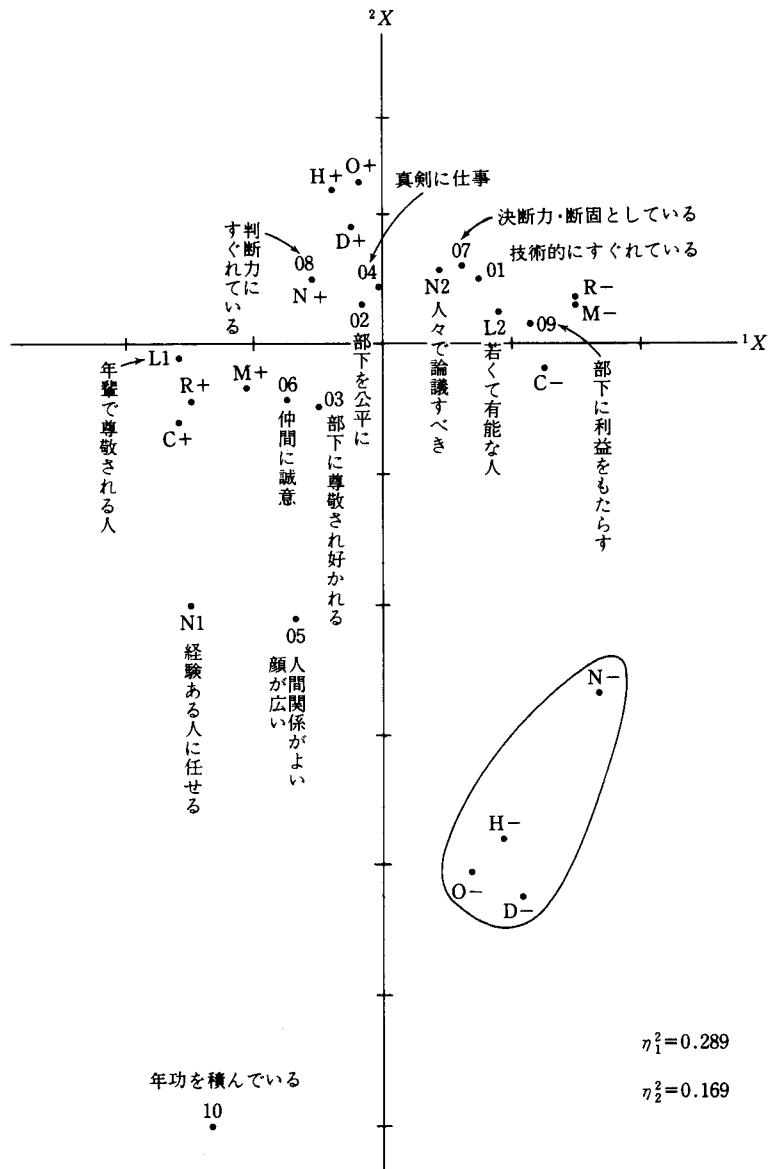


図 15. リーダーシップに関する意識構造 (日中ボンドサンプルの数量化 III 類による分析).



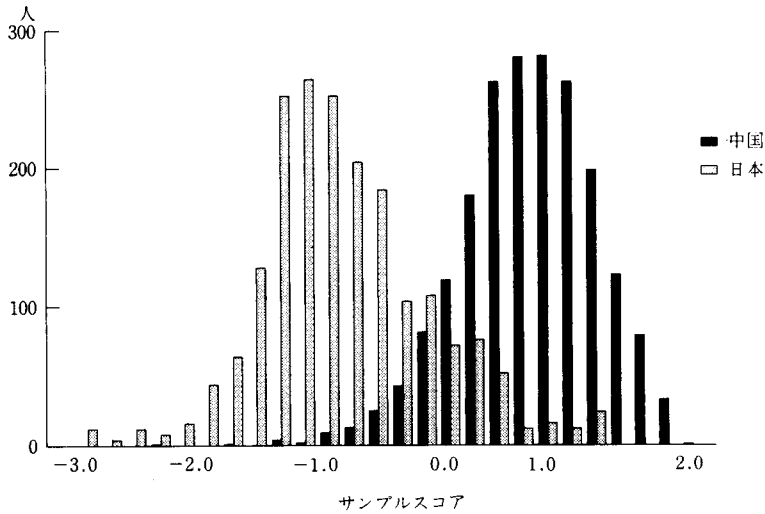


図 16. 第 1 次元目のサンプルスコアの分布 (日中ボンドサンプルの数量化 III 類による分析).

日本的リーダーシップの条件	(中, 日)	中国的リーダーシップの条件	(中, 日)
部下に尊敬・好かれる	(28, 46)	部下に利益をもたらす	(39, 7)
仲間に誠意を以て接する	(16, 34)	技術的に優れている	(71, 23)
人間関係がよい, 顔が広い	( 8, 15)	若くて有能	(82, 28)
経験のある人	(11, 31)	決断力断固としている	(39, 23)
年輩で尊敬される人	( 9, 50)	(真剣に仕事をする)	(33, 32)
年功を積んでいる	( 1, 5)		
判断力が優れている	(22, 36)		
部下を公平にあつかう	(37, 41)		
伝統文化との関連	肯定	否定	
	(中, 日)	(中, 日)	
子孫繁栄 (paternalism)	(21, 54)	(56, 4)	
分別	( 8, 56)	(64, 3)	
中庸	( 5, 27)	(65, 12)	
和を以て貴しとする	(47, 64)	(17, 4)	
寛容と礼節	(45, 52)	(20, 12)	
*親の慈悲深さと子の孝行	(61, 55)	(13, 8)	
*仁義道德	(56, 46)	(16, 14)	

上記の伝統的徳徳に関する質問の回答を見ると、\*印を除いて、中国の方が“誇りに感じる”回答が少なく、“なくしてしまいたい”とする回答が多い。日本の方が中国よりも“誇りに感じる”回答の率が高い項目(\*印以外)がリーダーシップに関係が強いことは興味深い。共産党教育のしみこんだ中国との比較の単なる一例であるが、日本では人間関係と関係深いリーダーシップは一つの特徴を示すものと考えてよからう。(三隅二不二による PM 理論 (三隅 (1984)) の M——メンテナンス——に呼応すると思われる。)

なお、リーダーシップに関係深いものとして、国民性調査 (第 V 次と第 VI 次) に次のような

表 14. 飛行機事故の質問への回答比率 (%)

	1 まずあやまっ てまわる	2 まず原因調査 に努力する	3 その他 DK
1973	50	40	10
1978	51	41	8
1978年 属性別			
男	55	37	8
女	47	43	10
20~24	54	43	3
25~29	56	41	3
30~34	50	41	9
35~39	47	46	7
40~44	52	40	8
45~49	46	45	9
50~54	55	41	4
55~59	64	25	11
60~	43	39	18
小卒	45	35	20
中卒	50	42	8
高卒	52	41	7
大卒	53	41	6

質問もあるのでふれておく。これは日航の1985年の大事故以前のものであり、しかも、ハワイ調査で比較しようとしたが、回答選択肢の1はアメリカでは考えもつかない考えであるから質問にならぬとして採用されなかったもので、外国では調査が行なえないようなものである。

質問 (#7.16) 飛行機の事故があったとします。あなたはつぎのどちらの社長の態度がよいと思いますか。  
〔回答肢のリストを提示して回答をとる〕

1. 社長はまず犠牲者の家をあやまってまわる
2. 社長は原因の調査などに努力する。

結果は表14のようになる。“あやまってまわる”がより多い結果となっている。日本のリーダーの性格を考える上で一つの示唆を与えている。

リーダーに対する同様の傾向を示すデータと考察が、中間的回答の好みと併せて文献(林(1994))に詳述されている。

## 1.6 意識の未分化

日仏の比較、CREDOC (L. Lebart) との共同研究によって見出されたものである。QOL (Quality of Life) に関する各領域の質問をすべて用いて、日本とフランスのデータ分析を行った。詳しくは(林・鈴木(1986))に発表されているので、それに譲るとして要点のみをあげておこう。

日本では、1次元目において中間的回答とそれ以外、2次元目にポジティブとネガティブがわかれるという中間的回答の特色ある姿がここでも現れている。フランスでは1次元目でポジティブとネガティブがわかれ、2次元目に中間回答が分離するという形がみられた。いずれにしても、ここまではニュアンスの差はあるものの、内容的に大きな差はないものと見られる。

ポジティブの内容をさらにみるために3次元目をみるとフランスではQOLの各領域別にポジティブが分化している。つまりポジティブクラスターが領域別に分離していて、いわば独立している。ある領域でポジティブでも他の領域ではポジティブとは限らないことを示している。ところが日本においては、特別なものはあるが一般的に、ポジティブの領域がフランス程分化しておらず、かなりよくかたまっていて、いわば未分化の状態が強く見られると言ってよい。1つの領域でQOLがよいと他の領域でもよいという大局的傾向である。これは、伝統対近代の分析(統計数理研究所国民性調査委員会(1992))でみられたのと同様の傾向である。つまり各領域での伝統・近代の回答が未分化でどの領域にも通ずる伝統対近代という考えの筋道が形成されたのと似た形である。このような考え方が日本人にあるのではないかと予想させるものがある。他の国では無関係なものが、何かの見方・感じ方から1つの方向に方向付けられ、それが

「1つの考えの筋道」となって現れるという傾向である。勿論逆の場合も想像されるが、データ的には経験したことはない。

意識の未分化に関連した分析は後述することにする。

### 1.7 科学文明観

とりあげた質問は附録2に、回答は表15に示す。日本の場合、一般的な科学の問題に対しては、かなりポジティブな回答を示していることが解る。しかし、科学で人の心の問題、社会経済の問題が解決できるかとなると極めて悲観的になることがはっきりしている。宇宙生活の実現性のポジティブ回答も少ない。つまり、人間の心が関係していることになると、科学が踏みこめないという意見が強いのである。しかし、繰返すが、一般的な事に関しては科学の力を評価しているのである。これも、外国とくらべたときの日本人の一つの特色である。ドイツは科学文明に対して一貫してかなりネガティブであるが、心の問題、社会の問題に対しては日本ほどではないことに注目したい。

### 1.8 自然観

自然、森林に対する態度を比較した日独仏調査がある(林・飽戸(1984), pp. 23-38, 四手井・

表15. 科学文明に対するポジティブな回答(%)

		日本	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ
#7.36	科学上の発見利用は日常生活の改善に役立っている	48	37	33	50	<u>61</u>
#7.33	コンピュータの発達は望ましい	31	15	32	16	<u>34</u>
#7.83	近代医学にたよらない方がよいものがある	全くその通り	72	<u>77</u>	62	76
#7.84	科学で人の心がわかる	+	14	34	65	50
#7.85	科学で社会経済問題が解決できる	そう思う	15	44	<u>49</u>	43
#7.86	核廃棄物の処理	多分実現する	33	17	28	<u>34</u>
#7.86b	ガンの治療	"	65	37	68	64
#7.86c	老人性痴呆の治療	"	29	17	23	12
#7.86d	宇宙生活	"	19	36	23	33

注) 下線はその項目で最大の%

表16. 自然観・森林観の質問

	1	2
A 山川草木に霊が宿っているような気がしたことがあるか	ある	ない
B 森の中を散歩するのは好きか	好き	好きでない
C 大きい古い木を見たとき神々しい気持ちを抱くか	抱く	抱かない
D 深い森に入ったとき何か神秘的な気持ちを持つか	持つ	持たない
E 「森林を美しく維持するためには人間の手を加えなければならぬ」と「森林を美しく維持するためには人手を加えるべきでない」とどちらが正しいと思うか	人間の手を加えなければならぬ	人間の手を加えるべきでない
F 「農場や牧場や森林が入り交じっている人手の加わった自然」と「全く人手の加わらない森林や荒地のありのままの自然」とどちらが好きか	人手の加わった自然	ありのままの自然

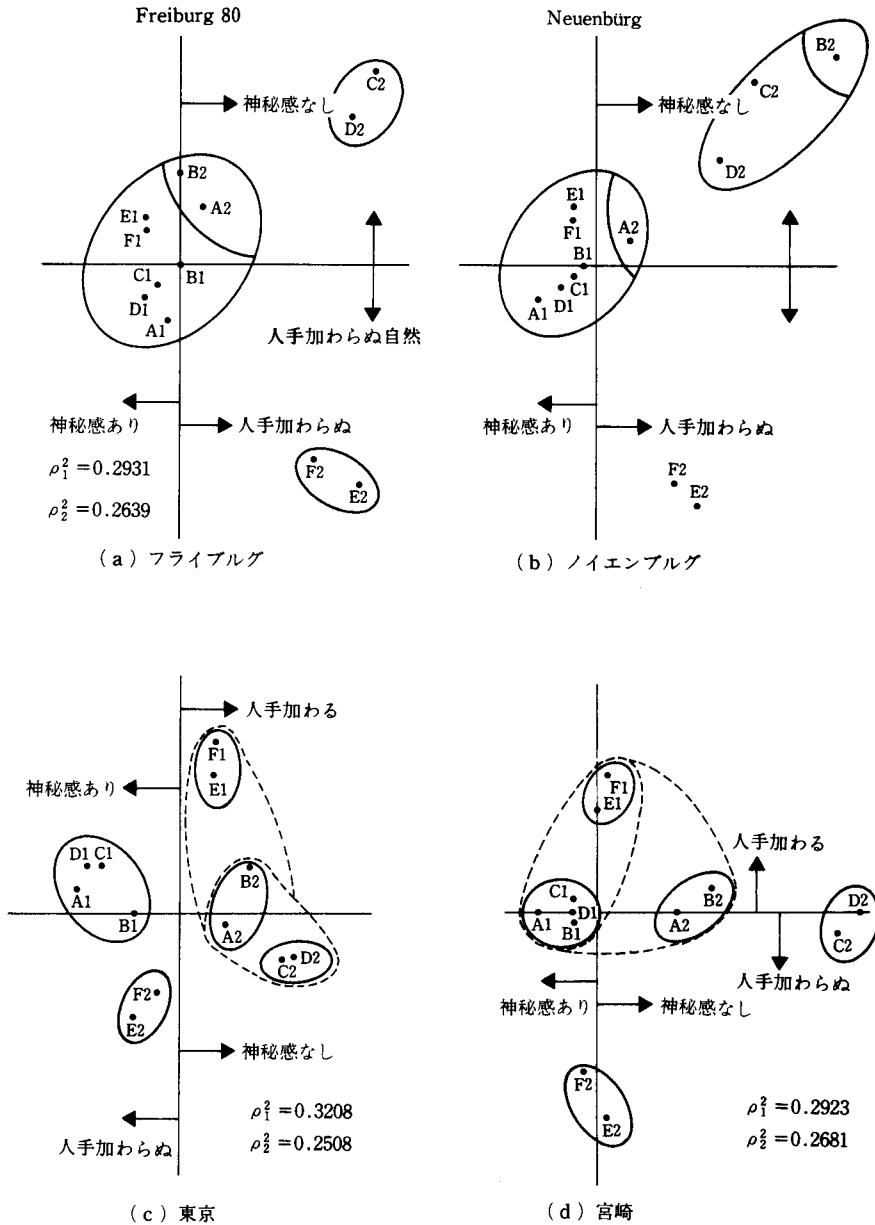


図 17. 自然観の心の構図。

林 (1984)). 詳しくはそれら文献によるが、日本人の特色というもののみあげておこう。とりあげた質問は表 16 に示す。これをもとに日本 (東京) とドイツの各都市で数量化 III 類による分析を試みた。その結果としてドイツのフライブルグ、ノイエンブルグ (地方都市)、東京、宮崎の図柄をあげておこう (図 17)。

東京においては“森林に対する神秘的な感情あり”(質問 A, B, C, D) と“森林に対する態

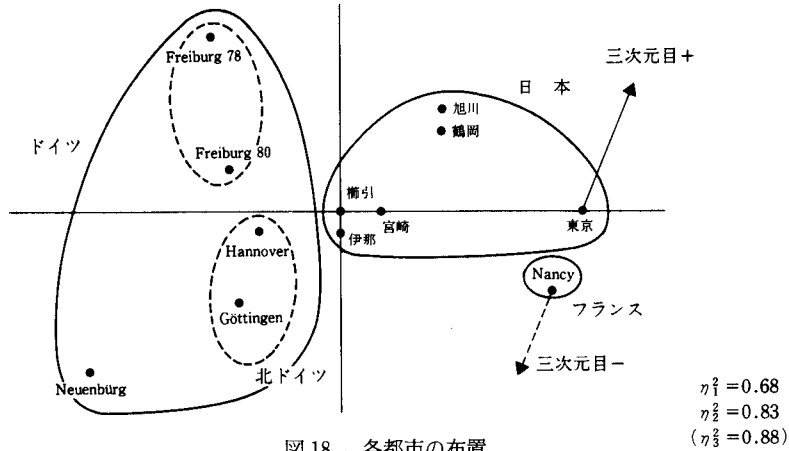


図 18. 各都市の布置.

度” (質問 E, F) における回答とは独立の形をしているが、ドイツ各都市においては、神秘感と森林に対する“人間の手を加えねばならない”, “人手の加わった自然が好き” の回答が一体となっているというおもしろい形が得られた。さらに述べると、東京においては、神秘感と森林に対する態度が独立しており、且つ、神秘感をもつものが“人手の加わらない自然が好き”, “人間の手を加えるべきでない” のと同じ側にあり、神秘感をもたないものが“人手を加えるべき”, “人手の加わらない自然が好き” と同じ側にある。このことに、自然保護・保全 (コンサーベーション) のむずかしさが示されているといえる。

各都市の図柄の差異を、義理人情の図柄の非親近性マトリックスを作ったのと同様に、非親近性マトリックスにまとめ、同異の相を MDA-OR (林 (1993b), 林・鈴木 (1986), Hayashi et al. (1992)) によって描いてみた。図 18 のように、説明を要しないほどはっきりした様相が示された。日本、特に東京の特異性があらわされている。

ここに示したデータは古いものであるが、1993 年の「日本人の自然観に対する調査」(全国ランダムサンプル) によっても、日本人全体として全く同じ様な心の構図を持つことが知られた (林 他 (1994))。

### 1.9 宗教

国際比較において、宗教が特異的傾向を示すのはどの国でも同じであるので簡単に触れるが、日本では、“宗教を信じる” ものは多くはないが、“宗教的な心は大切” というものが多いというのが特徴である。“宗教を信じるか” (#3.1), あるいは“信じなくても宗教的な心は大切” (#3.2) というものを合わせると 80% あまりで、この 35 年間変化はない。いわゆる大多数意見 (全体で 2/3 以上, 性・年齢・学歴のどの層でも 2/3 以上の支持のある意見) となっている。また、コーホート分析によれば、“宗教を信じること” は時期や生年コーホートによることはなく年齢 (加齢) によって大きく左右される、つまり歳をとると宗教を信じるようになることを示している。外国との比較可能なデータは少ないが、オランダの例があり、これによると時期と生年コーホートが強く作用し、年齢はほとんど影響がないのである (林・鈴木 (1986), Hayashi et al. (1992))。

この加齢による変化は、日本の一つの特徴ではないかと思われる。こうしたことの背景として、素朴な宗教感情が以下に示すように極めて高いということがあるのではないかと思われる。これについて、次に示す質問が調査されている (林 他 (1994))。回答肢の後ろの数字は、1993

年10月調査の全国ランダムサンプルの結果であり、括弧内はそれぞれ順に、1975年東京23区、1976年米沢地区、1977年東京23区、1993年関東都市圏のものである。地域は異なるが時を経て傾向的に増加しているように見える。

質問1 あなたは、日の出や日没、また静かな山のなかで、あらたまった気持ちになったりすることがありますか。

- |   |       |    |
|---|-------|----|
| 1 | ある    | 78 |
| 2 | ない    | 17 |
| 3 | わからない | 5  |

質問2 あなたは山川草木、山や川や草や木など、このようなものに霊がやどっているような気持ちになったことがありますか。

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| 1 | ある    | 37 (31 24 24 33) |
| 2 | ない    | 54               |
| 3 | わからない | 10               |

質問3 人間の自然開発の犠牲になったり、食糧になったり、実験に使われたりした動物に対して、感謝を捧げたい気持ちになったことがありますか。

- |   |       |    |
|---|-------|----|
| 1 | ある    | 59 |
| 2 | ない    | 30 |
| 3 | わからない | 11 |

質問4 あなたは、神社の拝殿の前に立ったり、お寺で仏像を見たり、キリスト教の教会に入ったとき、心が落着いたり、あらたまった気持ちになったりしたことがありますか？

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| 1 | はい    | 82 (70 75 69 81) |
| 2 | いいえ   | 14               |
| 3 | わからない | 4                |

## 2. 意識の国際比較の観点からみた日本人と外国人の同異の姿

CLAの考え方に従って、各国のものの考え方・見方・感じ方の同じところ異なるところを明らかにすることは、頭初にのべた研究主旨からみて重要である。表1(序)にあげた1987年と1988年の5カ国調査データから様々な分析がなされた。この全貌をここに示すことは困難であるが、ここでは基本的に重要な点について書いてみることにする(詳しくは、統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991)参照)。1章では主として日本の特徴について述べてきたが、外国と同一のところもあるのでこの点もあわせて論じてみよう。

### 2.1 同一スケールの存在と国の位置付け——マクロ分析

調査に用いた全質問のうち、日本人の特徴を示す人間関係に関するもの及び分析の結果、別に取り扱った方が望ましいことがわかったいくつかの質問を除外し、残りの全質問をとりあげた。これを次の(ア)から(コ)の10の領域——各領域は数問以上の質問からなる——に分けてみると、それらが(コ)の政治的主義主張を除いて、各国において同様の1次元的ガットマンスケールをなすことが、パタン分類の数量化によって明らかになった。これは極めて重要なことである。問題を領域にわけてみるとポジティブ-ネガティブ、伝統-近代、楽観-悲観などと名付けられる1次元的尺度で考えるということがボーダーレスな考え方だということが出てきた。これは大きな知見であった(統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991))。

(ア) 経済と帰属階層意識

(イ) 不安感

表 17. 各質問群別の国の順位.

	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本	順位の上の方の意味	順位相関係数
(イ) 不安	1	5	3	4	2	不安なし	1.00
(ウ) 先祖等	5	3	3	1	2	重んじる方	0.95
(エ) 科学文明観	5	2	4	1	3	ポジティブな方	1.00
(オ) 健康	4	5	1	3	2	ポジティブな方	0.60
(カ) 金	5	4	2	1	3	非金志向の方	0.90
(キ) 経済・将来	2	5	4	3	1	ポジティブ・明るい方	0.90
(ク) 信頼感	1	5	3	1	4	信じる方	0.85
(ケ) 家庭	5	4	3	2	1	伝統的の方	0.90

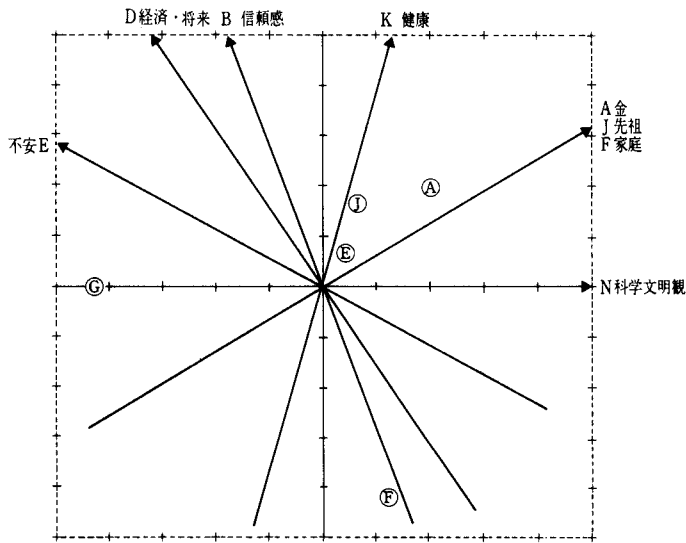


図 19. 領域別国の順序に基づく総合表示 (APM).

- (ウ) 先祖, 家族, 宗教
- (エ) 科学文明観
- (オ) 健康観と生活満足
- (カ) 金に対する態度
- (キ) 経済に対する態度, これからの見通し
- (ク) 信頼感
- (ケ) 家庭に対する近代・伝統
- (コ) 政治的主義主張

すなわち複雑に見えることが、こうした考えの筋道の同一性を示すものに仕分けされたことが解ったのである。このそれぞれの仕分けされた中では、つまり局限された場においては国の間でも誤解はおこらないのである。そして、その同じ筋道の中で各国の位置付けができるわけである。

ここで、政治的主義主張では、自由主義 (リベラリズム) はアメリカで特殊な反応を示すので

ここでは除外し、また (ア) と (キ) とは全く同じ傾向を示すことが解ったので (ア) をとりやめ、残りの8つのスケールについて分析を進めることにした。

8つの領域それぞれに、各国で同様の1次元的ガットマンスケールをなすので、ポンドサンプルに対してパターン分類の数量化を行ない(全ての国を1つの筋道の中で見る)、1次元目の個人得点の国別の平均値によって国の順位を決定した。ポジティブ(明るい)の方に若い順位、非金志向、伝統的方向に若い順位を与えた。この結果は表17に示す通りである。

APM (Allow and Point Method, 林 (1993b), 林・鈴木 (1986), Hayashi et al. (1992)) による分析結果は図19に示しておく。この分析では、各国が点で各領域が矢印のついた直線で表わされ、各点の線上への射影点の位置で順位を再現する。国の位置をみると、アメリカ (A)、日本 (J) とイギリス (E) とが近く、ドイツ (G)、フランス (F) がはなれるという3極構造が出てきた。各領域をあらわす矢印のついた直線は、矢印のついている方が表17の右側に書いた“順位の上の方の意味”である。領域のクラスターは、

金に対する態度, 先祖, 家族  
 科学文明観  
 健康観  
 信頼感, 経済  
 不安感

となるが、これはあくまでも各領域別のポジティブ-ネガティブ、非金志向-金志向、伝統-近代などの国別平均の順位的位置付けに準拠したものである。個人レベルでの領域間の相互関係を考慮した上のものでないことに注意されたい。順位相関は健康観の0.60を除いていずれも高く、8領域の平均は0.90で、この図19の図柄は表17の情報をよく盛り込んでいるといえることができる。

こうした部面に限定すると日本とアメリカは近く(このことはイギリスも同様)にある。しかし、前に述べたように、日本的なものを考えに入れた対人関係などの事項に関しては日本とアメリカは対極にある、という関係は興味のある問題で、十分心に留めておくべき事項である。このAPMの分析は、スケールをなす領域に分類した質問群での国単位のスケール値に基づく大局的事象把握によるものであり、関連性を考慮していないという意味で、序で述べた単純集計の大局的見方と同様と見做せるものである。ひとつ次元の上がった意味での単純集計に基づく分析と言ってよい。

## 2.2 個人の回答パターンを基にする国の位置付け——マイクロ分析 その1

次の分析は、個人のスケールを構成している各領域への反応をもとにしたとき、つまり、各個人の領域別パターンを情報にしたとき、国別にどのような様相が見られるかの分析である。つまり個人の内部におけるスケール間の関連性をもとにする分析である。このため表18に示すAからNの各領域それぞれで5カ国すべてのデータを用いてパターン分類の数量化を行ない、得られた個人得点の分布を眺めた。個人得点はその人の示す各領域でのスケールを示すわけである。

1次元目でスケールをなす7つの領域(金志向、信頼感、不安感、家庭観、先祖観、健康観、科学文明観)については、スケール(個人得点1次元目)の分布が、一応、25%、50%、25%となるように3区分に分類した。2次元目まで考えた方がよりすっきりするあとの2つの領域、経済観と主義については、1次元目と2次元目の数値を用い、プラス-マイナスの組み合わせで、それぞれ、よい(明るい)-中間-わるい(暗い)、民主主義・資本主義好み-社会主義好み-中間、の3分類とした。



表 18. 9つの領域のスケールとカテゴリー。

スケールの名と内容		スケールの3区分のコードと意味		
A (金志向スケール)	カ. 金志向か否か	A1 金志向	A2 中間	○A3 非金志向
B (信頼感スケール)	ク. 信頼感	○B1 あり	B2 中間	B3 なし
C (主義スケール)	コ. 主義	○C1 民主主義 資本主義好み	C2 中間	C3 社会主義好み
D (経済観スケール)	キ. 経済・将来の 明るさ	○D1 ポジティブ よい(明るい)	D2 中間	D3 ネガティブ よくない(暗い)
E (不安感スケール)	ケ. 不安感	E1 不安あり	E2 中間	○E3 不安なし
F (家庭観スケール)	ク. 家庭・結婚	F1 近代的	F2 中間	○F3 伝統的
J (先祖スケール)	ケ. 先祖・家	○J1 重んじる 伝統を重視	J2 中間	J3 重んじない 伝統重視しない
K (健康観スケール)	ネ. 健康・健康観	○K1 ポジティブ よい	K2 中間	K3 ネガティブ よくない
N (科学文明観スケール)	エ. 科学文明観	○N1 ポジティブ	N2 中間	N3 ネガティブ

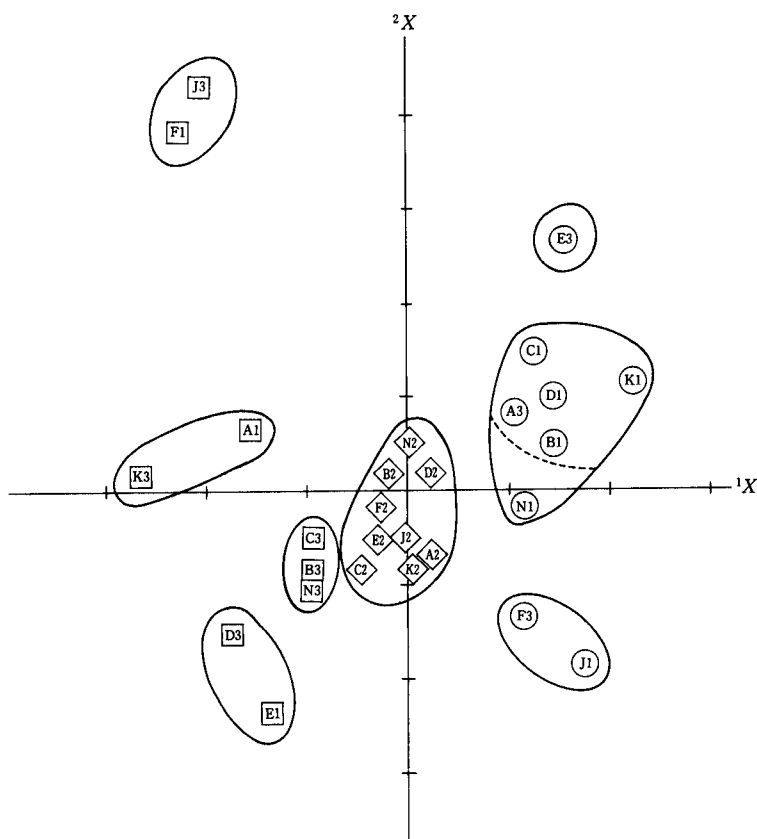


図 20. 日本の場合。

今後の分析を理解するため、表 18 に、これから用いる記号と共に、それぞれの領域のスケールの名称と内容、スケールの 3 区分のコードとその意味を示しておく。また前述の領域との対応をカタカナで示してある。

ここで一つの方向を示すため、ある立場から○印をつけておいた。このことが、結果を見易くするために妥当であったことは、これからの分析で明らかになることである。これらの 9 項目を用いて国別にパタン分類の数量化を用い、それらの間に存在する考えの筋道を明らかにすることにした。

理解し易くするために日本の分析から始めよう。図 20 である。

いまある立場から○印をつけたが、日本ではこれらが第 1 軸 ( $^1X$ , 1 次元目) の右方、その対極 (図中では□印) が左方、中間 (図中では◇印) が中央に一団となって固まるということが明らかになった (ここでの固有値は第 1 根 0.20, 第 2 根 0.15 で第 1 根がドミナントである)。このある立場とは、いわば「そうなる」ことを予想した日本的発想であったのであるが、○印をつけたのを仮にポジティブというニックネーム (内容的には十分正しくはないが)、対極をネガティブ、コード 2 であらわされているものを中間と名付けておく。簡単な構造である。ポジティブ側は不安なし (E3) に対して先祖・家を重んずる方の反応 (J1) と家庭観の伝統的な方の反

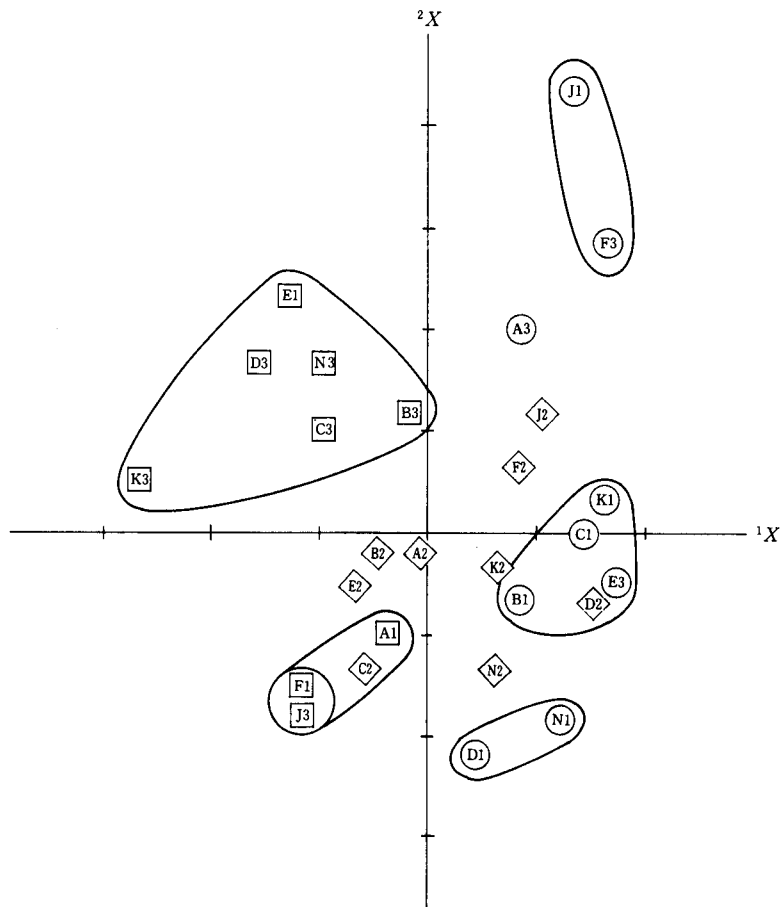


図 21. ドイツの場合。

応 (F3) とが上下 ( ${}^2X$ , 2次元目) で分離し, 残りが一団とってよさそうである。不安と先祖・家庭は別として, 未分化という形である。これと中間が一団となり小さく固まったクラスターをなしているのも, 日本人好みの様相である。ネガティブ側は (D3 経済将来暗い, E1 不安あり) と (J3 先祖・家を重んじない, F1 家庭・結婚観近代的) とが両端, その間に (A1 金志向, K3 健康よくない), (B3 信頼感なし, C3 社会主義好み, N3 科学文明観ネガティブ) があるというクラスター構成である。

これ以上論じる前にドイツの結果をみよう (図 21)。ドイツの場合も, 第 1 軸 ( ${}^1X$ ) で○印と対極の□印がわかれることは日本と全く同じである (固有値は第 1 根 0.20, 第 2 根 0.15 で差があり, この点も日本と同様である)。しかし中間コードがばらつき, ポジティブ側, ネガティブ側に入りこんでおり, 日本のように第 1 軸で中間の答が中央に固まって他と分離するということはない。中間の反応は, たがいに他の領域ではポジティブ, ネガティブいずれかに寄ることがわかる。経済スケール (D) の中間はポジティブ側に, 主義スケール (C) の中間はネガティブ側にというのがはっきりしており, さらに健康 (K), 科学 (N), 先祖 (J), 家庭 (F) の中間はポジティブ寄り, 金志向 (A) の中間, 信頼感 (B) の中間, 不安 (E) の中間はネガティブ寄りという特色ある形が見える。このことは単純集計データを読むときの参考になると言ってもよからう。ネガティブ側で, (金志向, 先祖・家重んじない, 家庭の近代的な方の反応 (A1, J3, F1)) とその他が 2 つのクラスターを作っており, ポジティブ側はその対極としてのクラスターである。○印, 対極がわかれるのは同じであるが, 中間の布置, ポジティブ, ネガティブのクラスターに違いが見出せる。

各国別に見て行くと, 同じようで異なり, 異なるようで同じというキメ細かい同異の相がよみとれる。これについては詳しく論じている文献 (統計数理研究所意識の国際比較委員会 (1991)) を参照されたい。小さな差異に見えたところも, 実は大きな社会の違いを蔵していることもあるので, 得られた知見を土台にして, さらに慎重にものを考えていく必要があると考えられる。得られたものは, 現象を探るための知恵となるべきものである。

これらをまとめてみると, 考え方の筋道の大きな枠組として全く異なっているという姿はみられないが, 似たところと異なったところがそれぞれ混ざりあって出てきていることがわかる。これらの考察を以下 (1) から (4) に要約しておこう。

### (1) 大局的な図柄の構成

第 1 軸 ( ${}^1X$ ) で○印 (ポジティブ) と□印 (ネガティブ) が分離するのは, 日本, ドイツであり, イギリス, アメリカでは先祖と家庭を除いてこの形がみられ, こうした点では考えの筋道は異なっていない。しかし, イギリスとアメリカでは第 2 軸で先祖と家庭の伝統・近代が分離するという形が出て, 第 1 軸と独立になっている点は重要な差異点である。フランスにおいてはこういうことはなく, 日本・ドイツと同じ傾向であるが, ○印とそれ以外が第 2 軸 ( ${}^2X$ ) できれいに分離するという事になり, 考えの重点のおき所の差異が出ている。このことは第 1 軸の解釈に差が出ていることを示すものであり, 家庭と先祖の近代的考えが他の項目のポジティブとより強く結びつくという点で, 日本・ドイツとも異なった傾向となっている。このことに注目すると (日本・ドイツ), (イギリス・アメリカ), (フランス) というクラスターの形になっている。日本・ドイツの図を約  $45^\circ$  回転するとイギリス・アメリカの関係が出る,  $90^\circ$  回転するとフランスが出るという明確な大局的な位置付けがここで明らかになった。これは, 似ていながら考えの筋道の異なる一つの差異のタイプを示しているともまとめられる。

### (2) ポジティブ・ネガティブ・クラスターの構成

ポジティブ (○印), ネガティブ (○印の対極, □印) それぞれのクラスター構成において, 国

表 19. ポジティブのクラスター構成.

第 1 軸	日本	E3	A3	N1	F3
			B1		J1
			C1		
			D1		
			K1		
第 1 軸	ドイツ	D1	B1	A3	F3
		N1	C1		J1
			E3		
			K1		
第 2 軸	フランス	E3	B1	A3	F3
			K1	C1	J1
				D1	
				N1	
第 2 軸	イギリス	K1	B1	A3	F3 第
		N1	C1		J1 2
			D1		軸
			E3		
第 2 軸	アメリカ	K1	D1	A3	F3 第
			N1	B1	J1 2
				C1	軸
				E3	

表 20. ネガティブのクラスター構成.

第 1 軸	日本	D3	B3	A1	F1
		E1	C3	K3	J3
			N3		
第 1 軸	ドイツ		B3	A1	
			C3	F1	
			D3	J3	
			E1		
			K3		
第 1 軸	フランス	E1	A1	F1	
			B3	J3	
			C3		
			D3		
			K3		
第 1 軸	イギリス	E1	A1	B3	F1
			C3	K3	J3
			D3	N3	
第 1 軸	アメリカ	E1	A1	F1	
		C3	B3	J3	
			D3		
			K3		
			N3		

によって似ているようで異なっているところがある。これを明確に把握しておかないと誤解を生じてしまう。

まず、家庭に関する伝統的考えと先祖や家を重んずる傾向、家庭に関する近代的反応と先祖や家を重んじないという反応、のそれぞれの結びつきはどこの国でも全く同じである。これらのクラスター各々と他のスケールのポジティブあるいはネガティブとの結びつきは、上述のように国によって必ずしも同一ではない。以上のもの以外の領域におけるポジティブ側、ネガティブ側のクラスター構成を、表 19、表 20 に、似ているところと異なっているところが明らかになるようにまとめてある。国々において相互にずれていることがわかる。

これらのクラスター構成の微妙な差を無視してものを考えるとき、社会構造の重大なギャップを見落してしまうと考えられる。たとえばドイツでは他の国と異なり、家庭・先祖の伝統の方に非金志向が加わり、近代の方に金志向が加わる。これは、ドイツ固有の社会の一つの反映ではないか。また、アメリカの、不安を強く感じる方の反応が社会主義好みと結びつくというのは、他の国では見られない大きな特色である。不安感を強く感じる方が、日本とドイツでは経済がわるくなるという方の反応と結びつくが、フランス・イギリスでは他と独立である。また、社会主義好みはアメリカ以外は一般のネガティブと結びついている。このようなことが見られるのである。

こうした形をこれらの表から問題に応じて探り出してくることは興味あることである。

### (3) クラスターの特異な結び付き

前述のようにアメリカでのみ見られたことであるが特記すべきことと思われるので別項としておく。家庭・先祖の伝統的意見のクラスターが、不安あり・社会主義好みのクラスターに近

いことである。これはアメリカ社会の一つの特徴を示していると考えてよいと思われるが——第1軸に近いし、第2軸でも近い、第3軸でも近い——これも今後、検討に値することと考えてよい。

(4) 各スケールの中間について

各スケールの中間（添字2であらわされているポジティブ（○印）とその対極のネガティブ（□印）の中間に区分されたもの（◇印））が、すべて、その言葉通りに中間なのか、あるいは、ポジティブ、ネガティブいずれかの意味をもつものか、という点に着目した分析である。結果をまとめてみたのが表21である。日本のみ、中間スケールはポジティブ、ネガティブの中間に小さくしっかりと固まり、固有の意味を持っていることを示している。これまで、中間回答は日本の特徴と述べてきたが、この分析においても中間の考え方という点においてもはっきりした形を示している。ドイツ、フランスは、中間スケールがばらついて固有の中間は少なく、ポジティブ、ネガティブのいずれかへ仕分けされることがわかる。アメリカは日本に次いで中間が固有の意味を持ち、イギリスはそれに次いでいる。他の領域との関係で、中間の回答の持つ意味がそれぞれ異なっていることが出ているのであって、表21にはデータを読むときの大事な知見が示されているのではないかと考えられる。

例えば、ドイツとフランスは中間の反応がいずれかへ振り分けられることが多いが、ドイツとフランスでは中間の反応の振り分けが逆になっているところが見出される。D2, K2がポジティブ側、A2がネガティブ側であることは同じであるが、F2, J2, N2がドイツではポジティブ、フランスではネガティブ側、B2, C2, E2はドイツではネガティブ側、フランスではポジティブ側にあるという反対の傾向である。

また、この中間の反応がポジティブ側かネガティブ側かということと、ポジティブ側が多い

表 21. 中間スケールのクラスター構成。

	ポジティブ寄り	中間の意味	ネガティブ寄り
日本		A2 B2 C2 D2 E2 F2 J2 K2 N2	
ドイツ	D2 F2 J2 K2 N2	A2	B2 C2 E2
フランス	B2 D2 E2 K2	← C2 A2 F2 → J2	N2
イギリス	D2	E2 F2 J2 N2	A2 B2 C2 K2
アメリカ	D2 F2	A2 B2 E2 J2 K2 N2	C2

かネガティブ側が多いかということを考え合わせるとき、次のような考察もできる。次に詳しく述べるが、結論を先に述べれば、アメリカは、ポジティブの回答をする好みがある（あるいは、そういう色メガネでものをみる）、日本は中間の回答をする好みがある（いつでもバランスをかけてものをみるという色メガネをもっている）、フランスはネガティブの回答をする好みがある（あるいは、そういう色メガネでものをみる）、のではないかという考え方である。実態は同一でも色メガネのかけ方で回答が変わるという見方である。その点でスケールの中間が他の領域、反応との関係でどちら寄りにあるかということは大きな情報を持っている。この点を以下に検討してみよう。

例えばフランスについてみると、科学文明 (N) に対してはポジティブが多いので N2 と言えばネガティブと思えるし、不安 E3 (ネガティブ) が多いから E2 と言えばポジティブと見られる。いわばバランスである。健康 (K)、経済 (D)、主義 (C)、信頼感 (B) についても同様である。しかし、金志向、家庭への近代的反応、先祖を重んじないという反応 (ネガティブ) は多いが、中間回答の A2, F2, J2 がネガティブ側に入っているのはバランスの意味ではなく、この領域では実際に中間がネガティブと見られるのである。アメリカでは主義 C3 (ネガティブ) が

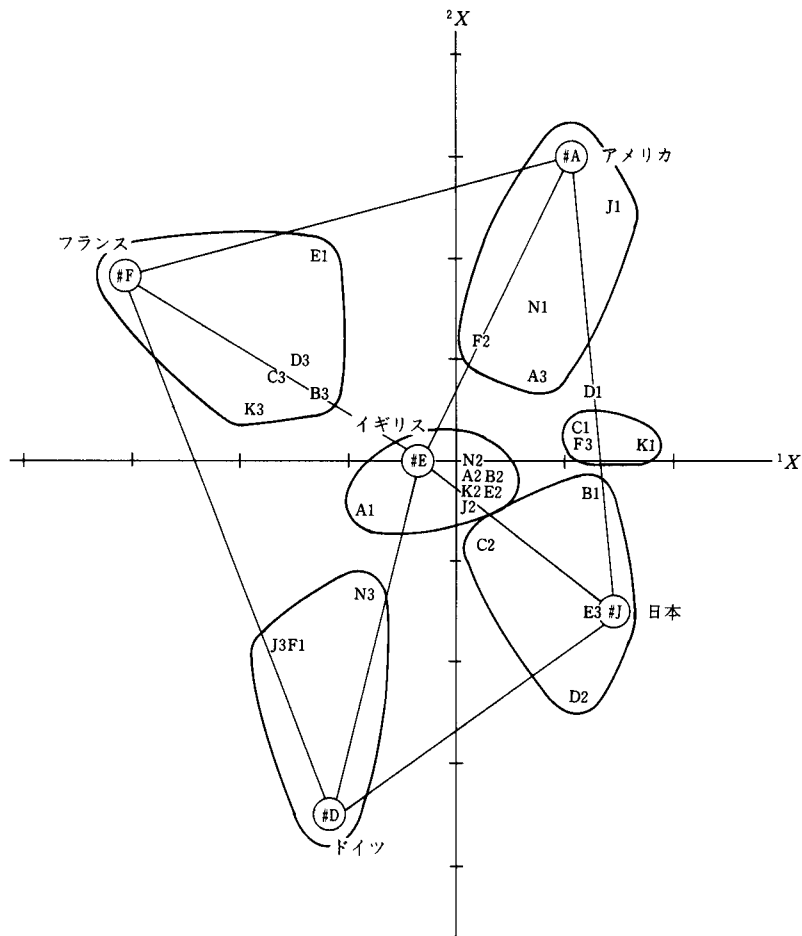


図 22. ボンドサンプルによる回答カテゴリーと各国の布置 (その 1).

少なく C1 (ポジティブ) が多いから C2 はネガティブに属するというのはバランス的であり、一方、経済、家庭では、D1, F3 (ポジティブ) が多くてこの中間 (D2, F2) がポジティブに属するということから、実際にこの2つの領域では中間がポジティブと見做せるのであろう。このように、本来、各領域でいずれの反応 (つまりポジティブ・ネガティブの反応) がドミナントであるかによって結論が変わってくるのであるが、中間がポジティブ・ネガティブのどちらに属する、あるいは近いかを調べることによって、その意味を探ることができるのである。バランスという言葉で上に定義したことが極めて多い場合は、偏った色メガネで見ているということができよう。

こうみえてくると、フランスもアメリカも、必ずしも上に言及したネガティブ・ポジティブの色メガネで全てのものを見ているとは限らないと言った方がよい。領域によって色メガネを変えているという見方もあるが、こうなると領域ごとに見方が違うのだと考えた方がよい。色メガネという表現は、すべての面で偏った見方をしているということの意味するからである。日本の場合に中間が多く、それがすべて固まるのは、そうした色メガネの傾向がある——そのようなものの見方が顕著である——ことを表わすと言ってよいように思う。

つまり、中間のスケールをどのように見るかは、表 21 を眺めて、それぞれの領域で決めるほかはない。

さて、こうした考えの筋道の違いを一応不問に付して、5カ国をポンドしたサンプルにおいて、パタン分類の数量化を行なってみたらどうなるか。国そのものも個人の回答の一つとしてデータの中に入れたとき、国と回答 (意識・態度) との結び付きが、回答相互の結び付きを超えて優勢に出てくるものであろうか。

結果は図 22 に示すが、国の特色が明確に出てきた。

国の分類が優勢で、それぞれの国のまわりにその国の特色ある回答 (国との結び付きのとりわけ強いもの) が出ているという形になった。総合的分析による各国の布置 (図 22) は第 1 軸 ( $^1X$ ) で (日本, アメリカ) (イギリス) (ドイツ, フランス) という形が出、第 2 軸 ( $^2X$ ) で日本, アメリカが分離し、第 2 軸で日本寄りにドイツ, アメリカ寄りにフランスが分離し、イギリスは中央にとどまるという形である。いわば正方形の各点に日本, アメリカ, ドイツ, フラ

表 22. 追加質問.

O. (#7.1) 人間らしさ	O1 へる	O2 へらない	O3 中間
P. (#7.2) 心の豊かさ	P1 へらない	P2 へる	P3 中間
Q. (#2.5) 自然と人間	Q1 従う	Q2 利用	Q3 征服
R. (#7.34) 省エネルギー大切か	R1 非常に大切	R2 中間	R3 大切でない
S. (#7.35) 環境保護大切か	S1 非常に大切	S2 中間	S3 大切でない
X. (#7.82) イソップ物語 アリとキリギリス	X1 おいかえす	X2 たべるものを与えていさめる	
Z. (#3.1a) × (#3.2) 宗教 × 宗教的な心	Z1 宗教信じる 宗教的な心大切	Z2 信じる 心大切でない	
	Z3 信じない 心大切	Z4 信じない 心大切でない	
U. (#3.1b) 宗教	U1 プロテスタント U4 その他の宗教	U2 カトリック U5 なし	U3 仏教





表 23. 国別の特色.

日本	主義 中間 経済 中間 人間らしさ いちがいにいえない 心の豊かさ いちがいにいえない 宗教は信じないが宗教的な心は大切 (同じ側に仏教)
アメリカ	先祖重んじる プロテスタント 宗教を信じ、宗教的な心大切
ヨーロッパ	カトリック * 宗教信じるが宗教的な心大切でない 社会主義好み 経済暗い 不安大きい * 先祖重んじない、家族大切でない 健康ネガティブ * 家庭観近代的 不信頼感

追加したものは、スケールではなく、普通の質問の回答である。まず、これらの質問のニックネーム、コード、カテゴリーの特色を表 22 にあげておく。

国別の分析を進めると考えの筋道の似ているところと異なっているところが剔出されたと見ることができた。この綾模様は、文化の異なる諸社会の深い面を探り出しているように思えるのである(詳しくは文献(統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991))参照)。

さて、こんどはこのくらいの違いを認めた上で各国をボンドし、パタン分類の数量化によって、これらの質問群の関連性の上に立った心の構図に基づく国の差異が、どのように出てくるかを見てみたい。きめの粗い分析であるが、その結果は図 23 に示すように、実に面白い三極構造が得られた。つまりアメリカ、ヨーロッパ、日本という形である。このうちイギリスはアメリカ

の方により近い点も面白い。それぞれの近くにある回答をみると、その包括的にみた相対的な特色を大掴みに表わすことができる。これを表 23 に示そう。一言で各国の特性をいうならば、日本の中間回答好み、アメリカは先祖を重んじ宗教を信じ、宗教的な心は大切、プロテスタントとの関係はより密接、ヨーロッパは一般に暗いイメージで近代的な方の家庭観により関係深く、より社会主義好み、カトリックとの関係がより密接、という形が描き出されたことになる。

なお、第 3 軸においてフランスとドイツ・イギリスが 2 分され、このドイツの特色は \* 印をつけたものにある。

結果が出てみれば、首肯できる形であるが、いかにも粗いものである。ほとんどすべての質問を入れてその関連の上に立って、国の特色を細かい点を抜きにして掴むと、このようになったということである。詳しい事を知った上での要約としては面白いものである。しかし、ニックネームができレットが貼られても、これだけでは大雑把過ぎ、立ち入ってみれば内容的には何の意味もない。これまで述べてきたような、あるいは文献(統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991))で示したようなより突っ込んだ分析が大事であって、時に大局的に掴み、時に細かく分け入ってその同異の綾を読むことが、人間理解・社会理解・文化理解に大切な方法論であろう。どこで近く、どこで異なるかは相互理解上重要なことであるが、これについては目下のところ上記の文献以上のことは出ていない。

## 2.4 回答の意味の解釈——イソップ物語と関連する社会的態度をめぐって——

もう一つ別の角度から話を進めよう。前にとりあげたイソップの物語“アリとキリギリス”の質問(#7.82)の構造的分析である(Hayashi(1992d), 統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991))。“アリとキリギリス”の話の結末として“食べものを与えていさめる”“嘲笑して追い返す”の 2 つのうちどちらが気持ちにじっくりするかをめぐる分析で、この結末を、怠けることへの訓戒の面を強調するか、やさしさから食物を与えるか、あるいは慈善(施し)の意味で食べものを与えるか、等の議論が様々の形でできる話題である。テキストの分析だけからも、い

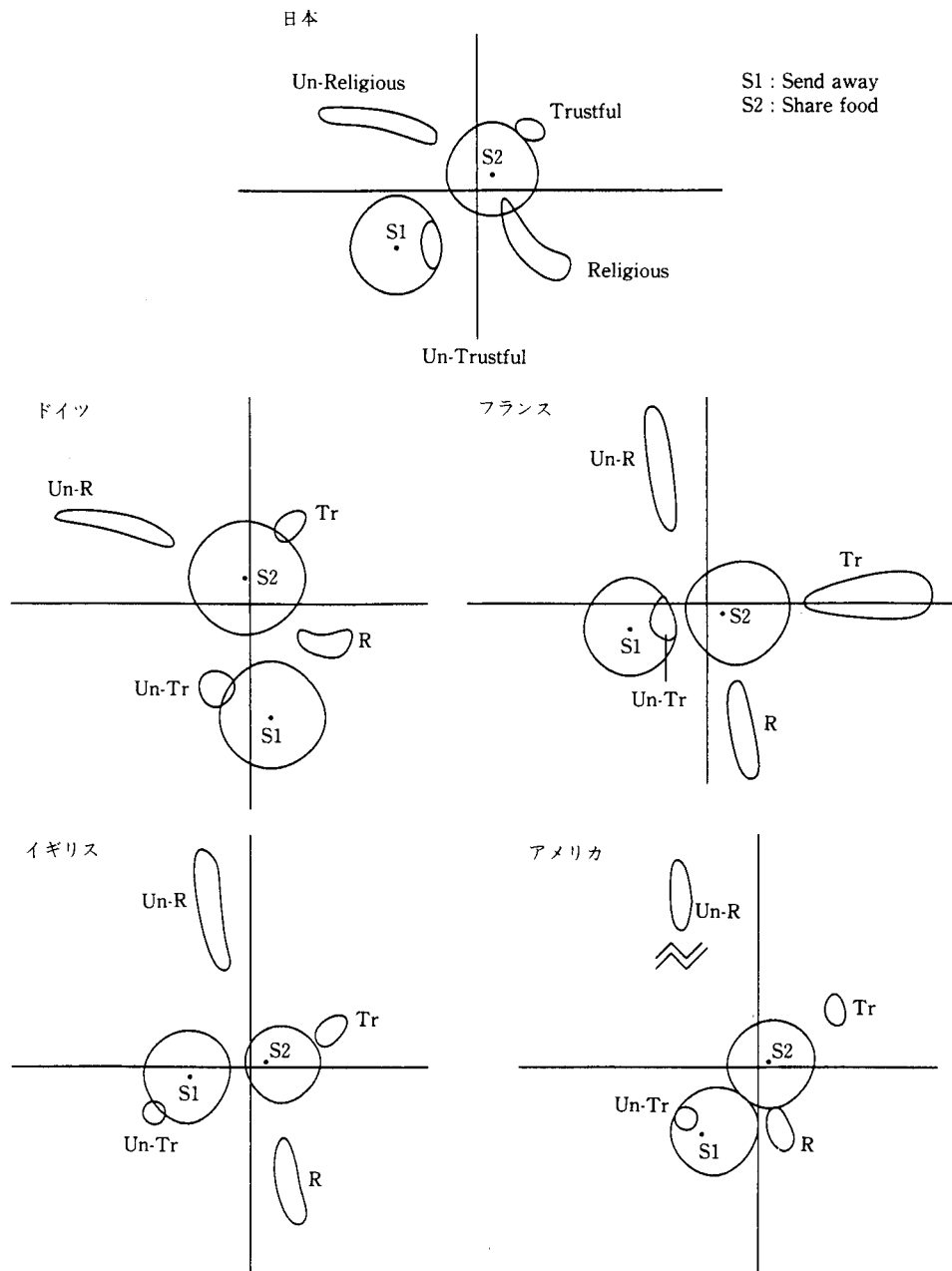


図 24. “アリとキリギリス”と関連する社会的態度の布置。

ろいろ議論できるが、一般の人々の考えとしてどのようなものであるかを総合的に明らかにしようとしたものである。とりあげた質問を表 24 にあげておく。

まず、すべての質問回答を含めて国別にパタン分類の数量化を行なってみたものを模式化したのが図 24 である。S1 (追いかえす), S2 (食物を与えていさめる) を中心に円が描いてある。S1, S2 クラスターの位置に着目しよう。日本とアメリカは第 1, 第 3 象限にそれらがある。フ

表 24. イソップ物語 (アリとキリギリス) と関連する社会的態度の質問.

記号	回答コードと質問内容	記号	回答コードと質問内容
#7. 18e	(A1, A2, A3) 幸福になるか	#7. 82	(S1, S2) アリとキリギリス
#7. 18b	(B1, B2, B3) 心のやすらかさはますか	#7. 81	(U1, U2) 収入か余暇か
#2. 30e	(C2, C3) 不安感-失業	#2. 8	(V1, V2) 一生働くか
生活領域の重要性		#7. 24	(W1, W2, W3, W4) 就職の第1条件
#5. 81d	(D2, D6) 一友人、知人	#3. 1	(X1, X2) 宗教を信じるか
#5. 81e	(E2, D6) 一両親、兄弟、姉妹、親戚	#3. 2	(Y1, Y2) 「宗教心」大切か
#5. 81f	(F2, D6) 一宗教	#4. 81	(Z1, Z2) 生活保護の考え方
#5. 1c1	(G1, G2) 入社試験 (親戚)	#2. 12	(L1, L2) 他人のためか自分のためか
#5. 1c2	(H1, H2) 入社試験 (恩人の子)	#2. 12b	(M1, M2) スキがあれば利用されるか
#2. 4	(I1-I5) 暮らし方	#2. 12	(N1, N2) 人は信用できるか
#2. 2b	(Kx, Ko) スジかまるくか	現代生活の個人態度	
#5. 6h	(Lo, Lx) 他人との仲か仕事か	#2. 83	(Ao, Ax) 一他人を助ける
#2. 3c	(O2, O3, O4) 家庭に満足か	#2. 83b	(Bo, Bx) 一共同体
#2. 82	(P2, P3, P4) 生活に満足か	#2. 83c	(Co, Cx) 一その日その日
#7. 19	(Q1, Q2) 才能か運か	#2. 83d	(Do, Dx) 一収入より手段
#4. 5	(R1, R2, R3) 「金は大切」と教えるか	#2. 83e	(Eo, Ex) 一孤独感
		#5. 6	(Fx, Fo) めんどろみる課長

ランスとイギリスは第1軸 (<sup>1</sup>X) に、ドイツは第2軸 (<sup>2</sup>X) にそれぞれが出ている。この点のニュアンスの差がまず注目される。

これにからめて、信頼感-不信感、宗教重視-非重視が関連してくる。これを T-UT, R-UR と書くと、第1軸で (T, R) 対 (UT, UR) の傾向にあるのは日本、ドイツであり、フランスは第1軸で T-UT, 第2軸で R-UR となってこの両者が独立の形であり、イギリス、アメリカがこの中間にある。

S1, S2 との関係のみよう。

	S2 (食べ物)	S1 (追い返す)
ドイツ	T	UT
フランス	T (寄り)	UT
イギリス	T (寄り)	UT
アメリカ	T (寄り), R	UT
日本	T, R	UT

となり、全体的に S2 の近くに T があり、S1 クラスターに UT が入る。R が他より S2 に近いのは日本とアメリカということになる。

ここまでみると、大局的に同じであるが、それぞれの間でニュアンスの差が少しあることがわかる。

次に S1 クラスターに共通に入るものをみたのが表 25 である。大局的にまとめてみると金志向、出世志向、人間不信、孤独、ポジティブでない社会的態度が入るのはどこの国でも同じであるということになる。各国でみて、全てに共通ではなくいくつかの国のみに入っている特色あるものを表 26 に集約して示してある。ある国のみに入っているものは、その国の特色であると言ってよい。カテゴリーの記号とそれらの内容を要約してあり、これを詳しく読めばよいわけである。

表 25. S1の周りのクラスター (各国共通のもの).

共通	ほぼ共通
W1	D2 (アメリカは無し)
W2	Q2 (ドイツは無し)
L2	Eo (イギリスは無し)
M1	I1 又は I2 (アメリカは無し)
N2	Ax (日本は無し)

表 26. S1の周りのクラスター (国の特徴).

	日本	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス
A2	○	○	-	-	○
C2	○	○	○	-	-
R1	-	○	○	○	-
Lx	○	-	○	○	-
Dx	-	○	-	○	-
Co	-	○	-	-	○
Fx	○	-	-	○	-
Z2	-	-	-	○	○
○の合計	4	5	3	5	3

注) ○印は左の記号の回答がS1クラスターに入っていることを示す

1国においてのみ S1クラスターに入っているもの

B2	日本	Bx	イギリス
U1	ドイツ	G1	フランス
E2	イギリス	H1	フランス
O4	フランス		
P4	フランス		

表 27. S2の周りのクラスター (各国共通のもの).

共通	ほぼ共通
W4	A3 (イギリスは無し)
D6	Do (日本は無し)
E6	Fo (アメリカは o と x)
O2	Cx (ドイツ Co)
P2	C3 (フランス C2)
Q1	R2 (日本は無し)
L1, M2, N1	
Lo	
I3 又は I4	
Ao	
Bo	

さて S2 の方の特色であるが、共通なものは表 27 に示してある。この共通の特色をまとめてみると、

失業の不安を感じない

満足

やりとげた感じのもてる仕事

一般的な人間関係の重視

ポジティブな社会的態度とライフスタイル

孤独でない関連の中にある生活を好む

温情主義的

非金志向

というのが大局的な傾向である。S1 の場合と同様に、ある国のみ S2 クラスターにその項目が属しているというのは一つの特色である。これは表 28 に示してある。

こうした S1, S2 に関する関連する回答を集約したものが表 29 であって、これによって共通するところと特殊であるところが理解できるはずである。

以上をまとめてみよう。全体的に構造を見れば同じ様な様相を示しながら、国によりニュアンスの異なるものが出ている。さらに、S1, S2 の内容をみると、これも大局的に同じ様相をみせながら、国によって相異なる特殊のものがそれぞれにむすびついている。このように同じところと異なったところがみだされ、ここでも、共通のところを鎖として特殊の項目が相互に結びついているという心の構図が CLA (連鎖的比較分析法) によって描き出されたわけである。

共通の一面のみをとらえ同じだとして特殊の面を切りすてて議論を進めれば、思わぬ違いに出会い、また特殊の一面をとらえてこれを強調し拡大するならば、大きな誤解に遭遇することになる。共通のものを鎖として特殊なものを絡ませて同異の姿をみるのが重要であることをこの分析は如実に示している。

以上は、統計数理研究所意識の国際比較委員会 (1991) における分析に基づいているが、しかしそれ以後別角度から非常に興味あることが解ってきた。これも似た所と異なる所を知る一つの手掛りである。これを次に述べる。

表 28. S2 の周りのクラスター (国の特徴).

	日本	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	
B	-	3	-	2	1,2	
U	1,2	1,2	-	2	1	散らばっている
V	1	1,2	1,2	2	1,2	
K	0	0,x	0,x	0,x	0	
G	1,2	-	1	2	2	
H	1,2	-	1	2	2	
Z	1,2	1,2	1	1	1	

注) 数字は、左の記号の項目で S2 クラスターに入る回答カテゴリーを示す

1 国においてのみ S2 クラスターに入っているもの

W3	日本
F2	ドイツ
Y1	日本

## 2.5 意識の分化と未分化の諸相

さきに QOL についてこの問題を論じたが (1.6 節), ここでは国際比較の観点から考察してみよう。これは、健康状態と社会意識の関係である。質問は「国民性を探る」には一見異様と見える質問の組み合わせで、CLA 法の核心に触れるものがある。

質問 (# 2.80) ここ 1ヶ月の間に次にあげるものに悩みましたか。(かかりましたか.)

[a~e の項目リストを提示して回答をとる]

a. 頭痛, 偏頭痛	1	かかったことあり	0	なし
b. 背中痛み	1	かかったことあり	0	なし
c. いらいら	1	かかったことあり	0	なし
d. うつ状態	1	かかったことあり	0	なし
e. 不眠症	1	かかったことあり	0	なし

回答は表 30 に示すように、日本は“かかったこと”が少ないのである。総じてフランスの回答が多いのである。この質問はフランスの共同研究者がとり入れることを主張したもので、この分析でその理由が解ったのであるが、問題はこれと他の質問との関連性である。その前に男女の差をみよう。いずれの国でも女の方が“かかったこと”が多いのはまず注目される (表 31)。その差 (男の“かかったことあり”の比率から女の“かかったことあり”の比率を引いたもので、マイナスは女の比率が男より多い事を示す) の合計をみると、日本は差が少ないのである。つまり日本は総計でそうしたものに“かかったこと”も少ないが、男女差も少なく、女の“かかったこと”が世界にくらべて大いに少ないことを示している。これは面白い。“かかったこと”が女が多いのはどの国でも同じであるが男女の差は日本が最も少ないのである。この意味は、さまざまなものを含んでおり、含蓄のあるデータである。

さて、これに不安感を加えて分析する。質問は次に示すものである。

質問 (# 2.30) ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。

あなたは、次のような危険について不安を感じるがありますか。

[4段階の回答 (1: 非常に感じる, 2: かなり感じる, 3: 少しは感じる, 4: 全く感じない) のリストを提示して, a.~e. それぞれに回答をとる]

表 29. S1, S2 の共通の性格と国別の特徴.

		S1	S2
共通の もの		金志向 不信感 孤独感 ポジティブでない社会的態度	不安感なし, 満足 仕事の成就 一般的に人間関係を重視 ポジティブな社会的態度と生き方 孤独感なし(関係的な生活) 温情的な上司を好む 非金志向
各 国 に	日本	心の平和に対して多少悲観的 理性的態度  B2, Fx	日本の国民性の特徴 働き続ける 人間関係における調和 宗教的な心が大切 <u>R1,2</u> , V1, Ko, W3, Y1, <u>U1,2</u> , <u>G1,2</u> , <u>H1,2</u> , <u>Z1,2</u> Do が無い
固 有 の も の	アメリカ	特徴が無い  Dx, Co D2, I1, I2 が無い	特徴が無い  <u>F1,2</u> , B3, <u>G1,2</u> , <u>H1,2</u> , <u>U1,2</u> , <u>V1,2</u> , <u>Kx,o</u> , <u>Z1,2</u>
	イギリス	孤立した離脱した性格を 示すカテゴリー  E2, Bx Eo が無い	特に特徴が無い 人間関係における型にはまった回答 生活保護は生活の道を与える G1, H1, Z1, <u>V1,2</u> , <u>Kx,o</u> A3, U1 が無い
	ドイツ	収入追求志向 ある点で厳しき  U1, Dx, Fx, Z2 Q2 が無い	楽な生き方 相対的にある点で人間関係が暖かい 生活保護は生活の道を与える Co, U2, F2, B2, V2, G2, H2, Z1, <u>Kx,o</u>
	フランス	不満足, 人の役にたとうとしない 相対的にある点で人間関係に冷たい ある点で厳しい Co, O4, P4, Ax, G1, H1, Z2	生活保護は生活の道を与える 金志向の生き方 相対的にある点で人間関係が暖かい C2, U1, Ko, G2, H2, Z1, <u>V1,2</u> , <u>B1,2</u>

注) アンダーラインはその項目が S1, S2と独立である(両選択肢が一方に偏在する)ことを表す

- まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。
- では、「交通事故」についてはどうでしょうか。
- では、「失業」についてはどうでしょうか。
- では、「戦争」についてはどうでしょうか。
- では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。

この症状と不安感の両質問を合わせ、国別に数量化 III 類を行なうと、カテゴリーの布置 ( ${}^1X \times {}^2X$ ) は図 25 に概略を示すごとく、きれいな差異が出てきた。

2次元布置をみると、ヨーロッパの諸国は、症状の有無(健康状態)と不安の有無の間にいわば独立的な関係がみられ、日本とアメリカはともに両者が1次元の構造を示すことが出ている。第1軸 ( ${}^1X$ ) のみでみると各国とも同じ傾向(症状あり・不安あり 対 症状なし・不安なし)

表 30. 国別回答率 (%).

項目	回答	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本
頭痛、偏頭痛	1 あり	40.6	35.8	36.1	34.6	21.9
	2 なし	58.3	63.9	63.5	64.8	76.9
	3 その他・DK	1.1	0.3	0.4	0.6	1.1
背中の痛み	1 あり	32.9	46.3	35.5	37.8	19.1
	2 なし	65.8	53.6	64.0	61.7	79.8
	3 その他・DK	1.3	0.1	0.6	0.5	1.1
いらいら	1 あり	25.1	55.8	19.7	30.3	25.7
	2 なし	72.7	44.0	79.7	69.0	73.2
	3 その他・DK	2.2	0.2	0.7	0.8	1.1
うつ状態	1 あり	7.7	19.6	20.9	20.7	5.5
	2 なし	90.6	80.2	78.4	78.2	93.4
	3 その他・DK	1.7	0.3	0.7	1.0	1.1
不眠症	1 あり	25.9	31.9	18.5	16.9	12.0
	2 なし	72.5	67.9	80.4	82.4	86.8
	3 その他・DK	1.6	0.2	1.1	0.7	1.1

表 31. 症状に“かかったこと”の男女差 (男の比率-女の比率).

	頭痛	背中の痛み	いらいら	うつ状態	不眠症	合計	差の少ない 順位
日本	-14	1	-3	-3	-3	-22	1
アメリカ	-14	-14	-18	-8	-6	-60	4
フランス	-13	-12	-10	-3	-10	-48	2
イギリス	-11	-12	-15	-10	-9	-57	4
ドイツ	-15	-13	-10	-3	-8	-49	2

であるが、さらに細部構造をみると、1次元構造と独立的構造という差が出ているのである。つまりこの多次元構造でみると、両者未分化の日本とアメリカに対する両者分化のヨーロッパ諸国という構図が見出される。この点アメリカと日本は似ているのである。

こんどは、社会状況 (Social Conditions, S.C. と略記) とその将来に対する予想の質問をとりあげてみる。

#### 社会状況の質問

質問 1 (# 7.30b) 日本人全体の生活水準は、この 10 年間でどう変わったと思いますか。

(国際比較調査では「日本人」を「(各国名) 人」に変える)

[回答肢のリストを提示し回答をとる]

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 非常によくなった | 4 ややわるくなった  |
| 2 ややよくなった  | 5 非常にわるくなった |
| 3 変わらない    |             |

質問 2 (# 7.30d) あなたの生活水準は、この 10 年間でどう変わりましたか。

[回答肢リスト提示]

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 非常によくなった | 4 ややわるくなった  |
| 2 ややよくなった  | 5 非常にわるくなった |
| 3 変わらない    |             |

質問 3 (# 7.31) これから先の 5 年間に、あなたの生活状態はよくなると思いますか、それとも悪くなると思

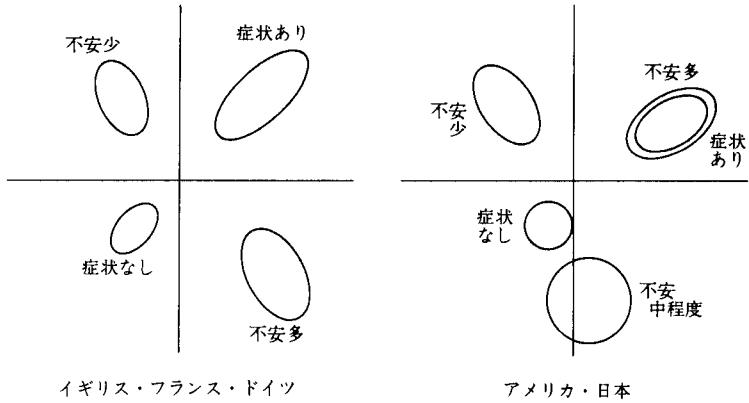


図 25. 不安感と健康状態の意識構造。

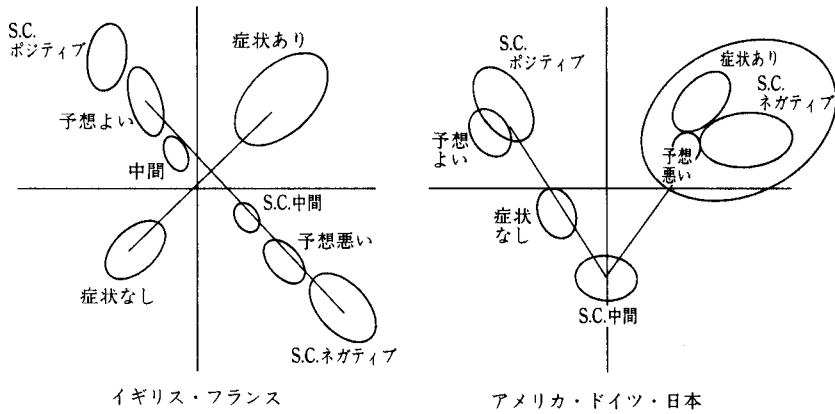


図 26. 社会状況 (S.C.), その将来の予想, 健康状態の意識構造。

いますか。〔回答肢リスト提示〕

- 1 非常によく become だろう
- 2 ややよく become だろう
- 3 変わらない だろう
- 4 ややわるく become だろう
- 5 非常にわるく become だろう

質問 4 (# 7.18e) これから先, ひとびとは幸福になると 思いますか, 不幸になると 思いますか,

- 1 幸福に
- 2 不幸に
- 3 変わらない

将来に対する 予想の 質問

質問 5 (# 7.18b) これから先, 心の やすらかさは, ますと 思いますか, へると 思いますか,

- 1 ます
- 2 へる
- 3 変わらない

質問 6 (# 7.18c) では, 人間の 自由は, ふえると 思いますか, へると 思いますか,

- 1 ふえる
- 2 へる
- 3 変わらない

質問 7 (# 7.18) これから先, 人間の 健康の 面は よくなって ゆくと 思いますか, わるく なると思 いますか,

- 1 よくなる
- 2 わるくなる
- 3 変わらない

この 7 問と 健康状態を あわせ, 国別に パタン分類の 数量化を行なうと, カテゴリーの 布置 ( $1X \times 2X$ ) は 概略, 図 26 の ようになる。



2次元構造をみると、健康状態と社会意識とが独立な形を示すのが、フランスとイギリスである。1次元的には“症状あり”は“社会状況は悪い”・“将来を悪く見る”と結びつくが、さらに立ち入って分析すると、独立な様相がみえてくるのがこの2カ国であり、1次元構造をなすものとして、今度は、日本・アメリカにドイツが加わっているのである。これは、症状の有無つまり健康状態と社会意識が未分化、一体をなしているということで、“症状あり”が“社会状況を悪く見る”こと“将来を悪く見る”ことと一体であり、“症状なし”はよい方の意見に結び付いているのである。心のもち方のありさまは国により異なっているが、その中で、日本とアメリカは一体として意識するものが共通している、つまり容易に特に意識することなく理解しあえる構図をもっていることがわかる。しかしこれは、ここでとりあげた問題のことであり、別の局面からみると前述のように(1.2節の中間的意見など)日米は両極にあるのである。

### 3. おわりに

これまで、比較可能性を求めつつ行なってきた国際比較方法論に関する我々の研究成果を踏まえて、日本と諸外国との異なるところと似ているところを明らかにしてきた。異なる点は、日本人の国民性の特色といえるものなので、国民性研究という観点から記述を行ってきた(第1章)。また、同じところ・似ているところを知ることが国際相互理解の糸口ともなるので、その観点から、どのように同じであるかを明らかにしてきた(第2章)。

このような論述をするに当たって、日系人調査が、諸々の点において重要であることが明瞭になってきた。つまり、日本人の特色を明らかにする上で、また、日本と外国とを繋ぐ鎖(linkage)となる点で重要であることが解ったのである。こうした日系人調査の重要性に鑑み、日系人調査の意味について考えてきたことを次のようにまとめて終わりとしたい。

日系人の問題を日系人の問題として行なうことは、我々としては困難な問題である。この問題を追求するには、日系人の研究者と問題意識を論じ合う必要がある。しかし、日系人の問題意識が我々の日本人研究にとって「目から鱗のおちる」ような視点を与えることがある。この一例をあげてみると、日本人移民がとった行動である。直ちに、人の中の組織化ができるのだそうである。つまり「長」がきまり、幹事がきまり、事務局が自ずとできて、役割分担がきまり、組織が動くのである。新しい技術の導入・普及、新しい法律の理解と適用などの知識の普及も、これを通して行なわれた。第2次大戦中は、「真のアメリカ人になりきることこそが、真の日本人のあり方である」という考え方が教育されたという。こうした組織があるがために日系人は発展して行ったとのことである。こうした組織は、中国人、韓国人はもとより他の民族にはない、ただユダヤ人にもこうした傾向があるということである。これが日本人のものの考え方、感じ方のどこに胚胎するかを調べることに興味があることを聞かされた。これは素晴らしいアイディアで、日本人ではどうしても気付かなかった問題である。このことはFugita, S.S. と O'Brien, D.J. の“Japanese American Ethnicity” (University of Washington Press, 1991) によって知られる。こういうわけで目下アメリカのフランク・ミヤモト教授、ステファン・フジタ教授、テツデン・カシマ教授と共同研究を進めている。

我々としては、前に述べたように日系人に残っているもの、つまり日系アメリカ人の場合、アメリカ人と異なり日本人に近いものを探り出し、それを J-attitude と名付け、日本人の国民性の特色をみるという立場をとってきた。この J-attitude には「人間関係を重くみること」、「中間的回答の多いこと」が見出され、これについて、日本人の時系列的にみた安定性があることから、明らかに日本人の特色と言うことができたのである。

また、CLAの立場から外国理解における重大な鎖として用いるという点も肝要である。以上のような3点から、我々が日系人の調査を行なう意味が重いのである。

## 参 考 文 献

- ブラジル日系人意識調査委員会 (1993). ブラジル日系人の意識調査——1991～1992——, 統計数理研究所研究リポート, No. 74.
- 橋本昌児, 高橋幸市 (1994). 日本人の意識の20年, 放送研究と調査, 6月号, 18-41.
- 林知己夫 (1981). 『日本人研究三十年』, 至誠堂, 東京.
- 林知己夫 (1988). 『日本人の心をはかる』, 朝日新聞社, 東京.
- 林知己夫 (1990). 意識の国際比較研究, 学術月報 (日本学術振興会), 43(12), 12-17.
- 林知己夫 (1991). 国民性をはかる, 市場調査 (輿論科学協会), 206/207 合併号, 2-32.
- 林知己夫 (1992a). 日本人の考え方の筋道を探る, *Satya*, 7 (夏季号), 12-14.
- 林知己夫 (1992b). 統計的方法による「日本人の国民性研究と意識の国際比較」方法論序説, 日本統計学会誌, 21(3) (増刊号), 353-367.
- Hayashi, C. (1992c). Belief systems, Japanese way of thinking: interchronological and international perspectives, social, educational and clinical psychology, *Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, 3, 3-34, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
- Hayashi, C. (1992d). Quantitative social research——belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations——, *Behaviormetrika*, 19(2), 127-170.
- 林知己夫 (1993a). 日本人の国民性, PHASE '93, 64-95, R&D社, 東京.
- 林知己夫 (1993b). 『数量化——理論と方法——』, 朝倉書店, 東京.
- 林知己夫 (1994). 国民性とコミュニケーション (原子力に対する態度構造と発電側の対応のあり方), *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, 1, 93-158.
- 林知己夫, 飽戸 弘 編 (1984). 『多次元尺度解析法の実際』, 3-23, サイエンス社, 東京.
- 林知己夫, 鈴木達三 (1986). 『社会調査と数量化』, 岩波書店, 東京.
- 林知己夫, 米沢 弘 (1982). 『日本人の深層意識』, 日本放送出版協会, 東京.
- Hayashi, C., Suzuki, T. and Hayashi, F. (1984). Comparative study of lifestyle and quality of life: Japan and France, *Behaviormetrika*, 15, 1-17.
- Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. (1992). *Data Analysis for Comparative Social Research: International Perspectives*, North-Holland, Amsterdam.
- 林 文, 林知己夫, 菅原 聡, 宮崎正康, 山岡和枝, 花房英光 (1994). 日本人の自然観についての予備的考察, *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, 1, 159-175.
- Inkeles, A. (1991). National character revised, *The Tocqueville Review* (eds. J.R. Pitts and R. Simon), 12(1990/1991), 83-117.
- Inkeles, A. and Levinson, D.J. (1969). National character, the study of modal personality and socio-cultural systems, *Handbook of Social Psychology*, 2nd ed. (eds. G. Lindzey and E. Aronson), Vol. IV, 418-506, Addison-Wesley, Reading, Massachusetts.
- 三隅二不二 (1984). 『リーダーシップ行動の科学』(改訂版), 有斐閣, 東京.
- 西平重喜 (1992). 日本人の国民性——中間的とりまとめ, 『第5 日本人の国民性』(統計数理研究所国民性調査委員会 編), 247-264, 出光書店, 東京.
- 四手井綱英, 林知己夫 編著 (1984). 『森林を見る心』, 共立出版, 東京.
- 統計数理研究所意識の国際比較委員会 (林知己夫, 鈴木達三, 佐々木正道, 三宅一郎, 林 文) (1991). 意識の国際比較方法論の研究, 統計数理研究所研究リポート, No. 71.
- 統計数理研究所国民性調査委員会 (1992). 『第5 日本人の国民性——戦後昭和期総集』, 出光書店, 東京.
- Wundt, W.M. (1910-1920). *Elemente der Völkerpsychologie*, Alfred Kroner, Leipzig. 1910年から1920年の間に10巻が刊行されており, そのうちの1部が翻訳されている. 比屋根安定 訳 (1959). 『民族心理学: 人間発達の心理史』, 誠信書房, 東京 (これは1912年の *Elemente der Völkerpsychologie: Grundlinien einer psychologischen Entwicklungsgeschichte der Menschheit* の翻訳である).

### 附録 1. 義理人情に関する質問群

#### 第1問 (#4.4) ‘先生が悪いことをした’

「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれがほんとうであることを知っている場合、子供には「そんなことはない」といった方がよいと思いますか、それとも「それはほんとうだ」といった方がよいと思いますか？

- 1 そんなことはないという .....32/29/31/27/26/23/24
- 2 ほんとうだという .....50/52/54/57/59/62/59

#### 第2問 (#5.1) ‘恩人がキトクするとき’

[絵を見せながら]南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受けとったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。

[ここで回答選択肢リストを見せる] あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を1つだけえらんで下さい？

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る .....46/46/51/51/52/52/49
- 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する .....46/47/40/42/41/41/42

#### 第3問 (#5.1b) ‘親がキトクするとき’

[第2問と同じ絵、同じリストで]いまの質問では、恩人が死にそうなきを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい？

- 1 なにをおいても、すぐ故郷へ帰る .....45/44/51/49/49/53/48
- 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する .....47/49/41/44/45/41/44

#### 第4問 (#5.1c-1) ‘入社試験(親戚)’

あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ(採用しろ)といえますか？

[回答肢リスト提示]

- 1 1番の人を採用するようという .....75/78/73/72/70/70/67
- 2 親戚を採用するようという .....19/17/19/23/23/24/24

#### 第5問 (#5.1c-2) ‘入社試験(恩人の子)’

それでは、このばあい、2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか？(どちらをとれといえますか？)

[回答肢リスト提示]

- 1 1番の人を採用するようという .....48/54/52/47/46/45/45
- 2 恩人の子供を採用するようという .....44/39/38/46/47/49/44

## 第6問 (#5.6) ‘めんどろをみる課長’

ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長につかわれる方がよいと思えますか、どちらか1つあげてください？

[回答肢リスト提示]

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろを見ません ……………13/12/13/10/9/10/12
- 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります、仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます ……………82/84/81/87/89/87/82

## 第7問 (#5.1d) ‘大切な道徳’

つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか？

[回答肢リスト提示]

- 1 親孝行をすること ……………60/61/63/70/73/71/69
- 2 恩返しをすること ……………43/45/43/47/50/47/43
- 3 個人の権利を尊重すること ……………49/44/45/38/36/36/38
- 4 自由を尊重すること ……………40/46/43/39/37/42/42

注) 表中の数字は、日本人の国民性調査の1963/1968/1973/1978/1983/1988/1993年の結果の%である。

## 附録2. 科学文明観に関する質問群

## 第1問 (#7.36)

科学上の発見とその利用は、あなたの日常生活の改善に役だっていると思えますか。

[回答肢リスト提示]

- 1 役だっている
- 2 少しは役だっている
- 3 役だっていない

## 第2問 (#7.33)

コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思えます。あなたは、このような変化をどう思えますか。[回答肢リスト提示]

- 1 望ましいことである
- 2 望ましいことではないが、避けられないことである
- 3 困ったことであり、危険なことである

## 第3問 (#2.80A~E)

つぎに読みあげる事柄についてあなたはどう思えますか。それぞれについて、この中からお答えください。[回答肢リスト提示]

- a 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある。
  - 1 全くそのとおりだと思う
  - 2 そう思う

- 3 そうは思わない
- 4 決してそうは思わない
- b 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。
  - 1 全くそのとおりだと思う
  - 2 そう思う
  - 3 そうは思わない
  - 4 決してそうは思わない
- c 今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。
  - 1 全くそのとおりだと思う
  - 2 そう思う
  - 3 そうは思わない
  - 4 決してそうは思わない

## 第4問 (#7.86A~D)

つぎに挙げることは今後25年の間に実現すると思いますか。それぞれについてこの中からお答え下さい。[回答肢リスト提示]

- a まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法」についてはどうですか。
  - 1 多分実現する
  - 2 実現する可能性は低い
  - 3 実現しない
- b 「ガンの治療方法の解明」についてはどうですか。
  - 1 多分実現する
  - 2 実現する可能性は低い
  - 3 実現しない
- c 「老人性痴呆症(ぼけ)の治療方法の解明」についてはどうですか。
  - 1 多分実現する
  - 2 実現する可能性は低い
  - 3 実現しない
- d 「宇宙ステーションでの生活」についてはどうですか。
  - 1 多分実現する
  - 2 実現する可能性は低い
  - 3 実現しない

## Comparative Study of National Character

Chikio Hayashi

(Emeritus Professor, The Institute of Statistical Mathematics)

Fumi Hayashi

(Faculty of Human Sciences, Toyo Eiwa Women's University)

The fundamental ideas of comparative quantitative social research from the international perspectives are mentioned in Introduction. Then a new method called cultural link analysis (abbreviated as CLA) is explained.

CLA includes the following three subjects.

- a. A spatial link inherence in the selection of the subject culture or society,
- b. An item-structure link inherence in the commonalities and difference in item response patterns within and across different cultures,
- c. A temporal link inherence in longitudinal analysis.

The characteristics of Japanese national character are shown as below from the international data including Japanese nationality based on this CLA.

### Introduction

1. Characteristics of Japanese national character : International perspectives
    - 1.1 Interpersonal relations
    - 1.2 Medium and intermediate answers
    - 1.3 Few extreme response
    - 1.4 Self-confidence and inferior complex
    - 1.5 Leadership
    - 1.6 Inseparability of attitude dimensions
    - 1.7 Attitude toward science and civilization
    - 1.8 A view of nature
    - 1.9 Religion
  2. Similarity and difference of attitude in Japan and other nations
    - 2.1 Existence of same scales in attitude components and relation among nations : Macro-analysis
    - 2.2 Relation among nations based on individual response patterns : Micro-analysis 1
    - 2.3 Relation among nations based on individual response patterns : Micro-analysis 2
    - 2.4 Interpretation of response in various nations
    - 2.5 Separability and inseparability of various opinions
  3. Conclusion
- References
- Appendix 1 Questions of Giri-Ninjo
- Appendix 2 Questions of science and civilization